J.S.Bach

Weihnachts-Oratorium

バッハ没後250年記念

クリスマス・オラトリオ 全曲演奏会

2000年11月23日（木） 午後6時開演

盛岡市民文化ホール

ご　あ　い　さ　つ

クリスマス・オラトリオ全曲演奏会実行委員会
実行委員長　　茂　木　容　子

本日は、クリスマス・オラトリオ全曲演奏会においでいただき誠にありがとうございます。本日の演奏会を盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、ＩＢＣ岩手放送とともに主催いたします、クリスマス・オラトリオ全曲演奏会実行委員会を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。

盛岡では葉を落とした木々に冬の気配が感じられる季節となりましたが、この季節になりますと、ちょうど１年前、盛岡バッハ・カンタータ・フェラインが本日の指揮者H. ヴィンシャーマン先生のお招きを受け、先生お住いのドイツ・ボン市のベートーベンホールで、ドイツ・バッハゾリステンとの共演でJ.S.バッハ作曲ロ短調ミサを演奏したことが思い出されます。それまで３度、日本ツアー合唱プログラムでH.ヴィンシャーマン指揮ドイツ・バッハゾリステンとの共演を果たした上で、改めてこの演奏旅行で共演合唱団として指名を受たことについて、いっそうヴィンシャーマン先生の信頼をいただいていることの証を感じ、大きな喜びと感動をもってドイツの聴衆の前で演奏いたしました。

このたび、５度目の共演となる演奏会で、バッハ宗教曲の名曲の一つであるクリスマス・オラトリオ全曲を、バッハ没後２５０年「バッハイヤー」にあたる今年、さらにクリスマスを１か月後にひかえた本日演奏できますことは、大いに記念すべきことと感じております。また、大きな愛をもってバッハを演奏され、合唱団員が敬愛いたしますH.ヴィンシャーマン先生の指揮で、合唱団がめざす音楽を、共に音を以って演奏して下さるドイツ・バッハゾリステンの皆様、新進気鋭のソリストの方々と共演できますことはこのうえない喜びでもあります。しかもこのことが、盛岡バッハ・カンタータ・フェライン創立以来２０年以上指導して下さっている佐々木正利氏に対する、H.ヴィンシャーマン先生の揺るぎない信頼に基づいて実現していることを、ひそかに誇りと感じております。

今年は記念すべき「バッハイヤー」ではありますが、盛岡バッハ・カンタータ・フェラインが、そのことだけでバッハを演奏するのではなく、バッハの音楽を愛しているからこそ、これまでも、さらにこれからもバッハに取り組んでいくことは、合唱団員一同のコンセンサスであります。真摯な気持ちをもってバッハの音楽への勉強を重ねてきました合唱団の活動に対し賛同して下さった皆様とともに、バッハ演奏の世界的権威であられるH.ヴィンシャーマン先生との共演の実現へ向けて、合唱団員でもあります私は実行委員として、広く地域の皆様とこの素晴らしい音楽を共有したいと考え、この演奏会の企画に参画して参りまして、とうとうこの日を迎えました。ご支援下さった皆様には感謝の気持ちでいっぱいでございます。この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

今宵、会場の皆様には、偉大な、しかし暖かく喜びに満ちたバッハの音楽をお楽しみいただけるものと存じます。さらに、私どもは皆様とこの貴重な時間を共有できますことを大きな喜びとし、感謝いたしております。

J.S.バッハ ： クリスマス・オラトリオ BWV248 全曲

第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ部

－ 休　憩 －

第Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ部

天羽明恵（ソプラノ）
井坂　恵（アルト）
吉田浩之（テノール）
大澤　健（バス）
藤崎美苗（ソプラノ・エコー）

ヘルムート・ヴィンシャーマン指揮

ドイツ・バッハゾリステン

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン
（合唱指揮 ： 佐々木 正利）

2000.11.23 盛岡市民文化ホール・大ホール

主　催：クリスマス・オラトリオ全曲演奏会実行委員会
盛岡バッハ・カンタータ・フェライン
ＩＢＣ岩手放送

共　催：盛岡市　盛岡市教育委員会　(財) 盛岡市文化振興事業団
岩手県　岩手県教育委員会

後　援：岩手日報社　盛岡タイムス　岩手日日新聞社　朝日新聞盛岡支局
毎日新聞盛岡支局　読売新聞盛岡支局　産経新聞盛岡支局
河北新報盛岡支社　岩手県教育委員会　岩手日独協会

DEUTSCHE BACHSOLISTEN

HELMUT WINSCHERMANN

Als ich erstmals die autographe Original-Partitur des "Weihnachts-Oratoriums" in meinen Handen hielt, war ich von der "grafischen Genauigkeit" der Händschrift Bachs tief beeindruckt. Es gehört zu meinen stärksten Erlebnissen und immer, wenn ich dieses Werk aufführen darf, habe ich das wundervoll geschriebene Notenbild vor meinen Augen.

Das 1734 entstandene Oratorium ist von allen Vokalwerken Bachs das populärste. Der frohe, heitere Charakter der Musik steht im Gegensatz zu den beiden grossen Passionen, die den gewaltsamen Tod jesu mit dramatischen musikalischen Mitteln beschreiben. lm "Weihnachts-Oratorium" mit seinen Sätzen wie der "Hirten-Sinfonia", dem "Wiegenlied" und einigen ergreifend kindlichen Chorälen erleben wir die Geschichte der Geburt des Kindes Jesus, den Beginn der christlichen Religion und und unserer Zeitrechnung. Heute, wo Juden und Palästinenser Krieg gegeneinander führen, sind Ortsnamen wie "Nazareth" oder "Bethlehem" in den Zeitungen und im TV schreckliche Alltäglichkeit.

Das "Weihnachts-Oratorium" besteht aus 6 Kantaten. Der Zyklus beginnt am 25.Dezember, dem 1. Weihnachtstag, dann folgt die 2. Kantate zum 26. Dezember und die dritte zum 27. Dezember. Hiermit endet die eigentliche Geschichte der Geburt Jesu. Die Kantaten 4-6 sind ein grosser Lobgesang auf den "neugeborenen König der Juden", nur unterbrochen durch die Drohung des Königs Herodes, alle neugeborenen Kinder zu töten, um damit auch das in Bethlehem geborene Jesus-Kind zu vernichten, von dem die "Weisen aus dem Morgenland" sagten, das Kind sei der neugeborene "König der Juden". Sie befolgten Herodes' Befehl jedoch nicht.

Der Choral "lch steh' an deiner Krippen hier" ist wohl der ergreifendste Moment im Verlauf des Oratoriums. lch bringe aus Deutschland einen Stern mit und lasse ihn Kirchen Weihnachten feiern.

Winschermann

私が初めて「クリスマス・オラトリオ」のオリジナル自筆スコアを手にした時、バッハのグラフィック的精緻さに強い感銘を受けました。これは、私の人生に於いて最も印象深い出来事の一つで、この曲を演奏する度に、あの素晴らしい原譜が眼に浮かびます。

１７３４年に作られたこの「オラトリオ」は、Bachの全ての声楽曲中、最もポピュラーで、その喜びに溢れる、明るい性格は、イエスの死をドラマティックな音楽手法で語る二大受難曲－ヨハネとマタイーとは対照的な位置にあります。「羊飼いのシンフォニア」、「子守歌」、いくつかの心に染み入る純朴な「コラール」などで織りなされる「クリスマス・オラトリオ」によって、私達は幼児イエスの降誕の物語を、又キリスト教とキリスト紀元（西暦）の始まりを体験することが出来るのです。

「ナザレ」や「ベツレヘム」という地名も、ユダヤ人とパレスティナ人の激しい争いを伝える昨今の報道で毎日の様に耳にします。

この「オラトリオ」は６つのカンタータより構成されており、第１カンタータが第１クリスマスの日、つまり１２月２５日、第２カンタータが第２クリスマスの１２月２６日、第３カンタータが１２月２７日の為に書かれ、この第３カンタータでキリスト降誕の物語は終わっています。第４～第６カンタータは、ユダヤ人の王として生まれた嬰児イエスへの大讃歌が主となり、その合間に、東方よりの博士たちより、ベツレヘムにユダヤ人の王が生まれたと聞き、これを抹殺しようと、全ての新生児の殺害を命じたヘロデ王のおどし、陰謀が入ってきます。博士たちは、王の命令に従わず、イエスの居場所を明かさなかったのです。

コラール「Ich steh' an deiner Krippen hier」(№59)は、恐らく全オラトリオ中最も感動的でしょう。

今回私はドイツより、イエスの居場所を示す「星」を持ってきて、ステージの上に吊そうと思います。ドイツの教会でクリスマス時にはどこでもそうして祝うように・・・。

訳：ミドリ　ノジリ・ヴィンシャマン

曲　目

Ⅰ Teil:Am1,Weihnachtstag

1. Coro:Jauchzet,frohlocket,auf,preiset die Tage
2. Evangelista:Es begab gich aber zu der Zeit(Tenore)
3. Nun wird mein liebster Brätigam(Alto)
4. Aria:Bereite dich,Zion(Alto)
5. Choral:Wie soll ich dich empfangen
6. Evangelista:Und sie gebar ihren ersten Sohn(Tenore)
7. Choral:Er ist auf Erden kommen arm(Soprano,Basso)
8. Aria:Großer Herr, o starker König(Basso)
9. Choral:Ach mein herzliebes Jesulein

Ⅱ Teil:AM2,Weihnachtstag

10. Sinfonia
11. Evangelista:Und es waren Hirten inder selben Gegend (Tenore)
12. Choral:Brich an, o schönes Morgenlicht
13. Evangelista:Und der Engel sprach zu ihnen (Tenore,Soprano［Angelus］)
14. Recitativo:Was Gott dem Abraham verheißen(Basso)
15. Aria:Frohe Hirten, eilt, ach eilet(Tenore)
16. Evangelista:Und das habt zum Zeichen(Tenore)
17. Choral:Schaut hin, dort liegt im finstern Stall
18. Recitativo:So geht denn hin, ihr Hirten,geht(Basso)
19. Aria:Schlafe mein Liebster, genieße der Ruh(Alto)
20. Evangelista:Und alsobalt war da bei dem Engel(Tenore)
21. Chorus:Ehre sei Gott in der Höhe
22. Recitativo:So recht, Ihr Engel, jauchzt und singet (Basso)
23. Choral:wir singen dir in deinem Heer

Ⅲ Teil:AM3,Weihnachtstag

24. Coro:Herrscher des Himmels, erhöre das Lallen
25. Evangelista:Und da die Engel von ihnen gen Himmel fuhren (Tenore)
26. Chorus:Lasset uns nun gehen gen Bethlehem
27. Recitativo:Er hat sein Volk getröst'(Basso)
28. Choral:Dies hat er alles uns getan
29. Aria Duetto:Herr, dein Mitleit, dein Erbarmen (Soprano,Basso)
30. Evangelista:Und sie kamen eilend(Tenore)
31. Aria:Schließe, mein Herze dies selige Wunder(Alto)
32. Recitativo:Ja,ja,mein Herz soll es bewahren(Alto)
33. Choral:Ich will dich mit Fleiß bewahren
34. Evangelista:Und die Hirten kehrten wieder um(Tenore)
35. Choral:Seid froh dieweil

第１部　クリスマス第１日

1 合唱「歓呼の声をあげよ!いざこの日をほめたたえよ!」
2 福音史家「そのころ、全世界の」(テノール)
3 レチタティーヴォ「今や私のお慕いする花婿が」(アルト)
4 アリア「備えなさいシオンよ」(アルト)
5 コラール「どんな風に私はあなたをお迎えし」
6 福音史家「そして、男子の初子を産んだ」(テノール)
7 コラール「あの方は貧しい姿でやって来た」(ソプラノ、バス)
8 アリア「偉大なる主、おお強き王よ」(バス)
9 コラール「ああ、我が心のみどり児イエスよ!」

第２部　クリスマス第２日

10 シンフォニア
11 福音史家「さて、この地方に、羊飼いたちが」(テノール)
12 コラール「現れよ、おお美しき暁の光よ」
13 福音史家「御使いは彼らに言った」(テノール、ソプラノ[御使い])
14 レチタティーヴォ「神がアブラハムに約束なさったことを」(バス)
15 アリア「喜べ、羊飼いよ、急げ、ああ急げ」(テノール)
16 福音史家「これが、あなたがたのしるしです」(テノール)
17 コラール「向こうを見よ!あの暗い家畜小屋に」
18 福音史家「それならば行きなさい、羊飼いたちよ」(テノール)
19 アリア「眠れ、私の愛らしい君よ、安らぎにひたりながら」(アルト)
20 福音史家「すると、たちまち、御使いと一緒に」(テノール)
21 合唱「いと高き所に、栄光が、神にあるように」
22 レチタティーヴォ「おみごと、天使たちよ、歓声をあげて歌え!」(バス)
23 コラール「私らは、御身の軍勢に加わって」

第３部　クリスマス第３日

24 合唱「天上の主君よ、舌足らずな歌に耳を傾けたまえ」
25 福音史家「御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき」(テノール)
26 合唱「さあ、ベツレヘムに行って」
27 レチタティーヴォ「主は、民衆をお慰めになった」(バス)
28 コラール「これらすべてのことを、主は我らのためになさってくださった」
29 二重唱「主よ、あなたの同情、あなたの憐れみが」(ソプラノ、バス)
30 福音史家「そして、急いで行って」(テノール)
31 アリア「私の心よ、この天の祝福を受けた奇跡を」(アルト)
32 レチタティーヴォ「わかりました、私の心にそれをとどめます」(アルト)
33 コラール「私は勤勉に御身をお守りしよう」
34 福音史家「羊飼いたちは、見聞きしたことが」(テノール)
35 コラール「それゆえに喜べ」

Ⅳ Teil:Am Fest der Beschneidung Christi

36. Chorus:Fallt mit Danken,fallt mit Loben
37. Evangelista:Und da acht Tage um waren(Tenore)
38. Recitativo con Chorale:Immanuel,o susses Wort (Soprano,Basso)
39. Aria:Flößt,mein Heiland,flößt dein Namen (Soprano,Echo[Soprano])
40. Recitativo con Chorale:Wohlan,dein Name soll allein (Soprano,Basso)
41. Aria:Ich will nur dir zu Ehren leben(Tenore)
42. Chorale:Jesus richte mein Beginnen

Ⅴ Teil:Am Sonntag nach Neujahr

43. Coro:Ehre sei dir,Gott,gesungen
44. Evangelista:Da Jesus geboren war zu Bethlehem (Tenore)
45. Wo ist der neugeborne König der Jüden(Coro e Alto)
46. Choral:Dein Glanz all Finsternis verzehrt
47. Aria:Erleucht auch meine finstre Sinnen(Basso)
48. Evangelista:Da das der König Herodes hörte(Tenore)
49. Warum wollt ihr erschrecken?(Alto)
50. Evangelista:Und ließ versammlen alle Hohepriester (Tenore)
51. Aria Terzetto:Ach,wenn wird die Zeit erscheinen (Soprano,Alto,Tenore)
52. Recitativo:Mein Liebster herrschet schon
53. Choral:Zwar ist solche Herzensstube

Ⅵ Teil:Am Epiphaniasfest

54. Chorus:Herr,wenn die stolzen Feinde schnauben
55. Evangelista:Da berief Herodes die Weisen Heimlich (Tenore,Basso[Herodes])
56. Recitativo:Du Falscher,suche nur den Herrn zu fällen (Soprano)
57. Aria:Nur ein Wink von seinen Händen(Soprano)
58. Evangelista:Als sie nun den König gehöret hatten (Tenore)
59. Choral:Ich steh an deiner Krippen hier
60. Evangelista:Und Gott befahl ihnen im Traum(Tenore)
61. Recitativo:So geht! Genug,mein Schatz geht nicht von hier (Tenore)
62. Aria:Nun mögt ihr stolzen Feinde Schrekken(Tenore)
63. Recitativo à 4:Was will der Höllen Schrekken nun (Soprano,Alto,Tenore,Basso)
64. Choral:Nun seid ihr wohl gerochen

第４部　キリスト割礼の日（１月１日）

36 合唱「感謝し賛美を持ってひれ伏せよ」
37 福音史家「そして、八日が満ちて」(テノール)
38 レチタティーヴォ,コラール「インマヌエル、おお甘きことばよ」(ソプラノ、バス)
39 アリア「答えて下さい、私の救い主」(ソプラノ、エコー/ソプラノ)
40 レチタティーヴォ,コラール「さあ、いざ、あなたの御名のみが」(ソプラノ、バス)
41 アリア「私はただあなたの栄光のみのために生きます」(テノール)
42 コラール「イエスよ、我が始まりを正せ」

第５部　新年後の日曜日

43 合唱「神よ、御身に栄光が歌われてあれ」
44 福音史家「イエスがベツレヘムでお生まれになったとき」(テノール)
45 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか」(合唱,アルト)
46 コラール「御身の輝きはすべての暗黒をのみ尽し」
47 アリア「私の不明の五感をも照らし」(バス)
48 福音史家「それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った」(テノール)
49 「なぜお前たちは恐れおののくのか?」(アルト)
50 福音史家「そこで、王は、民の祭司長たち」(テノール)
51 三重唱「ああ、その時はいつ現れるのでしょう」(ソプラノ、アルト、テノール)
52 レチタティーヴォ「私の最愛の主はすべてを統治します」(アルト)
53 コラール「確かにかかる心の小部屋は」

第６部　公現日（１月６日）

54 合唱「主よ、高慢な敵が息まくときも」
55 福音史家「そこでヘロデはひそかに博士たちを呼んで」(テノール、バス[ヘロデ])
56 レチタティーヴォ「汝、いつわり者よ、主を倒そうとうかがい」(ソプラノ)
57 アリア「彼の御手は」(ソプラノ)
58 福音史家「彼らは王の言ったことを聞いて出かけた」(テノール)
59 コラール「私はここ、飼い葉桶に眠る御身のそばに立つ」
60 福音史家「それから、夢で」(テノール)
61 レチタティーヴォ「さあ、行きなさい!満足です、私の宝はここから去ることはありません」(テノール)
62 アリア「今や、高慢な敵どもが脅かすことなどできない」(テノール)
63 レチタティーヴォ「地獄の恐れも今はなにするものぞ」(ソプラノ、アルト、テノール、バス)
64 コラール「今や、汝らは心ゆくまで復讐した」

1920年3月22日、ドイツ・ルール地方ミュールハイムに生まれた。エッセンとパリで学び、ヘッセン（フランクフルト）放送交響楽団、コンセルトヘボウ（アムステルダム）などのソロ・オーボエ奏者を務めた。その他、数々の室内楽団のリーダーを経て、1960年フランクフルトにおいてドイツ・バッハゾリステンを創立。以来、芸術監督として、今日まで30余年全責任を持ち、この室内楽オーケストラを独特のスタイルを持つアンサンブルに育て、特にバッハ演奏において世界的に権威ある演奏団体にした。ヴィンシャーマンは、オーボエを手にしても、指揮棒を握っても、ステージに立つときは、常に「明晰に、生き生きと、喜ばしく」という彼のモットーを貫いてきた。

ヘルムート・ヴィンシャーマン（指　揮）
Helmut Winschermann

ドイツ・バッハゾリステンのメンバーは、初めからヴィンシャーマンの芸術と人格を慕って集まってくる、著名なオーケストラの首席奏者や音楽大学の教授である彼の友人たち、およびその優れた弟子たちで構成されている。年配者と若い世代がバランスよく混ざり、メンバーも一定でないために、マンネリ化が避けられ、常にフレッシュな空気がアンサンブルにもたらされている。

音楽監督としては、「フランクフルト・バッハ演奏会」（20年間）、ケルン・バッハ協会の「オーケストラ演奏会」（7年間）などを手掛け、1983年からはリューデンシャイツ市で、市とドイツ政府の援助のもとに「リューデンシャイツ・バッハ週間」を主宰している。ドイツ・バッハゾリステンを率いて、あるいは客演指揮者として世界各地での演奏会のほか、地元のボンのベートーヴェンホールやケルンのブリュール城でも定期的にコンサートを開いている。

日本では、1962年以来ドイツ・バッハゾリステンとの来日以外に、客演指揮者としていくつかの日本の合唱団やオーケストラを指揮し、合唱を伴う教会音楽　－　バッハ、『マタイ受難曲』『ヨハネ受難曲』『カンタータ』『クリスマス・オラトリオ』、ヘンデル『メサイヤ』など　－　でも、友人のクルト・トーマスに学んだ指揮法を駆使して特筆すべき成果を上げている。また、種々の音楽祭や講演で熱心な指導を行っており、日本の若い音楽家が彼から受けた影響は少なくない。

一世を風靡した名オーボエ奏者として知られる一方、ヴィンシャーマンは優れた教育者としても知られ、1956年デトモルト国立音楽大学の教授に就任。オーボエと室内楽のマスタークラスを受け持ち、「歌うオーボエ奏者」と称される彼のクラスには世界各地から学生が集まり、優秀な後継者が輩出した。ハンスイェルク・シェレンベルガー（ベルリン・フィル）、宮本文昭（ケルン放送響）、インゴ・ゴリツキ（シュトゥットガルト国立音楽大学）、ゲルノート・シュマールフス（デトモルト国立音楽大学）、リヴィオ・ヴァルコール（フランクフルト放送響）など、それぞれのオーケストラの首席オーボエ奏者または大学の教授として活躍している。

『ブランデンブルク協奏曲』『音楽の捧げもの』『フーガの技法』などのバッハのオーケストラ作品の大曲が近年のヴィンシャーマンのプログラムの中心を占めているが、その他に、モーツァルトのピアノ協奏曲、セレナーデ、バレエ音楽、メンデルスゾーンのバレエ音楽など、ますます意欲的にレパートリーを広げており、特にモーツァルトのレコード録音に対しては、最上の評価を得ている。

また、著名な作曲家、ギゼルヘア・クレーベは、ヴィンシャーマンとドイツ・バッハゾリステンのために『ストラヴィンスキーの墓』という曲を書き、献呈している。

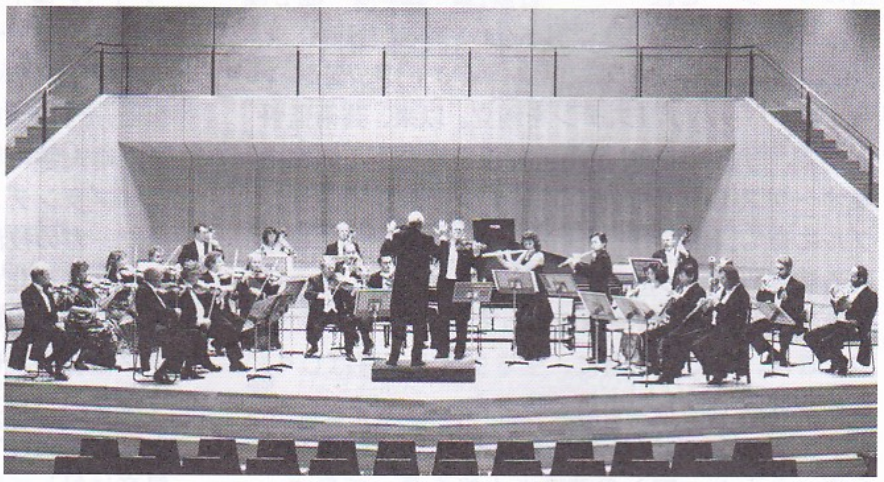
最近の公演評は、彼のモダン楽器によるバッハ演奏を高く評価している。日本やヨーロッパの大きなホールでは、モダン楽器を用いた方が聴衆はバッハの音楽をより理解することができるだろう。古楽器はすばらしいが、その魅力的な響きはヨーロッパの城にあるような小さなホールでこそ生かすことができる。ドイツ・バッハゾリステンのメンバーたちは古楽器の演奏にも通じている。ちょうどヴィンシャーマンが10年にわたってバロック・オーボエを演奏したように。

音楽学者でもあるヴィンシャーマンは、多くのバロック音楽の楽譜をジコルスキー社より出版、またレコードはドイツ・グラモフォン、ベーレンライター、フィリップス、ＲＣＡなどより50枚以上出している。なお、バッハゾリステン結成以前にバロック・オーボエも演奏した彼は、ドイツで最初のバロック・オーボエによるレコード録音を行っている。

ターコードなどよりバッハの協奏曲、ヘルマン・プライ、エディタ・グルベローヴァとのカンタータなどがリリースされている。

ドイツ政府より最高の一等功労十字勲章、レコードに対して権威あるエディソン賞2回、グスタフ・マーラー賞、1991 年度ドイツ・ヘンデル賞など、多くを受賞している。1992 年ロンドンで王立音楽アカデミー委員会満場一致にて「名誉会員」の称号を授与された。

1991 年にバッハのカンタータ 140 番とコーヒーカンタータ、1993 年にはマタイ受難曲で、ドイツ・バッハゾリステンの演奏により盛岡バッハ・カンタータ・フェラインを指揮した。また、1998 年1月にはユネスコ本部からの依頼により、パリにおいて平和のためのチャリティー・コンサート『盛岡国際平和コンサート』でミサ曲ロ短調を指揮、絶賛を博した。さらに、ロ短調ミサは 1998 年 11 月に盛岡、1999 年 11 月にはドイツ・ボンをはじめ2都市で続演され、それぞれ圧倒的な感動を生み出し大きな反響を呼んだ。



ドイツ・バッハゾリステン（管弦楽）Deutsche Bachsolisten

ドイツ・バッハゾリステンは今年結成 40 周年を迎えた。1962 年に初来日した折の演奏は、そのメンバーの豪華さと相まって、いまだに語り草となっている感動的なものだった。以来、翌 1963 年にはクルト・レーデル他のメンバーで来日、1965 年、1970 年、1974 年には意欲的な『フーガの技法』をプログラムに加えてその絶妙な演奏が絶賛を博した。またその間 1972 年にはエリー・アメリングとのカンタータが「管と弦、そして声までが一つの音色感にとけあい、妙なる調和の世界をつくりあげた」と評され、常に生き生きとした躍動感に富むバッハの理想像的名演を披露してきた。その後も 1976 年、1980 年、1983 年、1985 年、1988 年、1991 年、1993 年、1995、1998 年と日本公演が続き、今回が 16 回目の来日となる。盛岡バッハ・カンタータ・フェラインとは、1991 年、1993 年、1998 年、1999 年（ドイツ）に引き続き、今回の共演が5度目になる。

このドイツ・バッハゾリステンを組織したのは、オーボエの世界的名演奏家として著名なバッハ研究の権威、ヘルムート・ヴィンシャーマンである。1960 年、ドイツのウルム郊外のヴィプリンゲン修道院で定期的に開かれたフランクフルト・バッハ演奏会の芸術監督も務めていたヴィンシャーマンは、これを母体に、毎年この演奏会のためにドイツ中から集まってくる第一級の優秀なバロック音楽の演奏家たちによる文字通りの“バッハ・ゾリステン（バッハを得意とするソリストたち）”を結成した。したがって、メンバーは必ずしも一定せず、編成も弦主体だったり2管編成の木管が配されたり、12 名から 20 数名まで自由に構成されている。しかし、常に指揮者ヴィンシャーマンの深い研究に基づく正統的な解釈による格調高い演奏は、メンバーの変動にもいささかも変わらず、「バッハにもっとも忠実に、明晰に、生き生きと、喜ばしく」というヴィンシャーマンのモットーどおり、世界中の人々の心に感動をもたらし、世界のバッハ演奏の規範となっている。

今回の日本公演は、1993 年の『マタイ受難曲』、1995 年の『ヨハネ受難曲』、1998 年の『ロ短調ミサ曲』に続く『クリスマス・オラトリオ』と、ブランデンブルク協奏曲全曲演奏を含むバッハ・プログラムを中心に、その真骨頂を披露する。

ドイツ・バッハソリステン出演者

ズザネ・ホプファー	(フルート)	Susanne Hopfer	(flute)
クリスティアン・ホメル	(オーボエ、 オーボエ・ダモーレ)	Christian Hommel	(oboe, oboe d'amore)
ニーナ・ヴァイベル	(オーボエ、 オーボエ・ダモーレ、 オーボエ・ダ・カッチャ)	Nina Weibel	(oboe, oboe d'amore, oboe da caccia)
ヘルマン・ユング	(ファゴット)	Helman Jung	(bassoon)
ヨハネス・ゾンダーマン	(トランペット)	Johannes Sondermann	(trumpet)
ループレヒト・ドレース	(トランペット、 コルノ・ダ・カッチャ)	Ruprecht Drees	(trumpet, corno da caccia)
シュテファン・マイヤー	(トランペット、 コルノ・ダ・カッチャ)	Stefan Meier	(trumpet, corno da caccia)
アンドレアス・クレッヒャー	(コンサートマスター、 ヴァイオリン)	Andreas Krecher	(concertmaster, violin)
マグダ・ヘルマン	(ヴァイオリン)	Magda Herrmann	(violin)
エヴァ・ハイニッヒ	(ヴァイオリン)	Eva Heinig	(violin)
ドロテー・ラッグ	(ヴァイオリン)	Dorothee Ragg	(violin)
エレフテリオス・アダモプーロス	(ヴァイオリン)	Eleftherios Adamopoulos	(violin)
カタリーナ・フォーゲル	(ヴァイオリン)	Katharina Vogel	(violin)
フローリアン・バウマン	(ヴァイオリン)	Florian Baumann	(violin)
マーティン・ナゴルニ	(ヴァイオリン)	Martin Nagorni	(violin)
イムケ・グレーヴェ	(ヴァイオリン)	Imke Greve	(violin)
シュテファン・シュミット	(ヴィオラ)	Stefan Schmidt	(viola)
ミリアム・ゲッティング	(ヴィオラ)	Miriam Goetting	(viola)
ディートリヒ・シュナイダー	(ヴィオラ)	Dietrich Schneider	(viola)
イレーネ・ギューデル	(チェロ)	Irene Gudel	(violoncello)
トーマス・シュルツェ	(チェロ)	Thomas Schulze	(violoncello)
ズザネ・シュルツェ	(チェロ)	Susanne Schulze	(violoncello)
ヘルムート・ホーフマン	(コントラバス)	Helmut Hofmann	(contrabass)
ゴットフリート・バッハ	(チェンバロ、オルガン)	Gottfried Bach	(cembalo and organ)
ミドリ・ノジリ・ヴィンシャーマン	(チェンバロ)	Midori Nojiri-Winschermann	(cembalo)
白尾 隆	(フルート)	Takashi Shirao	(flute)
中根庸介	(オーボエ、 オーボエ・ダ・カッチャ)	Yosuke Nakane	(oboe, oboe da caccia)
平井好子	(オーボエ、 オーボエ・ダ・カッチャ)	Yoshiko Hirai	(oboe, oboe da caccia)
安江佐和子	(ティンパニ)	Sawako Yasue	(timpani)
都筑道子	(コントラバス)	Michiko Tsuzuki	(contrabass)

天羽　明恵
（ソプラノ）
Akie Amou

超絶的なコロラトゥーラとリリックな声を併せもち、内外で高い評価を得ているわが国期待のソプラノ。1995 年ラインスベルク音楽祭「ナクソス棟のアリアドネ」にツェルビネッタ役で出演、ソニア・ノルウェー女王記念コンクール優勝。1999 年 Bunkamura「トゥーランドット」のリュー役、紀尾井ホールでの五島記念文化賞オペラ新人賞海外研修帰国記念リサイタルで絶賛を博す。1999 年度アリオン賞受賞。

井坂　　恵
（アルト）
Megumi Isaka

武蔵野音楽大学声楽科卒業、同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ第 31 期生、文化庁オペラ研修所第 8 期生を経て、1992 年に渡独。ドイツ・カールスルーニ国立音楽大学大学院、モーツァルテウム音楽大学大学院に留学。

1996 年、第 35 回全日本学生音楽コンクール独唱部門東日本第一位受賞。1997 年、ピアニスト松川儒氏と共に東京文化会館にて、リーダーアーベント開催。1998 年、新国立劇場にて開催されたモーツァルトの「フィガロの結婚」でケルビノーニ役を歌い、二期会オペラにデビューした。二期会会員。

吉田　浩之
（テノール）
Hiroyuki Yoshida

みずみずしく伸びやかな美声と叙情性豊かな表現力で魅了するリリック・テノール。第 25 回ジロー・オペラ賞新人賞受賞。モーツァルト没後 200 年記念国際モーツァルト声楽コンコルソ本選入選。モーツァルトのオペラをはじめ、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイア」などのコンサートでも活躍を続けている。

大澤　　建
（バス）
Ken Osawa

1993 年、小澤征爾指揮によるベルリオーズのオラトリオ「ファウストの劫罰」でソリストを務めたのち渡独。ドイツ・オスナブリュック市立劇場の第一バスソリストとして専属契約を結ぶ。ドイツ各地で公演し、「洗練された歌唱と深い響きのバス」「迫真の演技」等、新聞その他で好評を得る。1997 年秋以降、活動の拠点を日本に移し、オペラ出演のほか、リート、オラトリオの分野において高い評価を受けている。

佐々木　正 利
（ 合唱指揮 ）
Masatohi Sasaki

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士及び博士後期課程修了。須賀靖元（声楽）、小林道夫（演奏法）、服部幸三（音楽学）、森明彦（発声法）、松本民之助（作曲）、岳藤豪希（宗教音楽）の各氏に師事。1973 年にバッハ・クリスマスオラトリオの福音史家で楽壇デビューして以来、バッハをはじめとする宗教音楽のスペシャリストとして揺るぎない地位を得ている。1979 年シュトゥットガルトに渡り、L.フィッシャー教授に師事。1980 年第 6 回ライプツィヒ国際バッハ・コンクール声楽部門第 5 位入賞。同年より 1982 年までデットモルト北西ドイツ音楽大学に学び、H.クレッチマール教授に師事。在独中は欧州各国の演奏会に招かれ、特に 1980 年ウィーン楽友協会ホールでのマタイ受難曲では『若き日のP.シュライヤー』と新聞各紙で絶賛される。帰国後もライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ベルリン交響楽団、ブタペスト・フィルハーモニー管弦楽団等、世界各国の著名オーケストラ、N響、読響等、日本のほとんどのオーケストラのソリストとして起用され、K.マズア、H.シュタイン、H.ブロムシュテット、小沢征爾等、世界を代表する数々の指揮者と共演。また世界的バッハ指揮者であるH.ヴィンシャーマン、H.リリング、H.J.ロッチュ、M.コルボ、R.ヤコブス等率いる、ドイツ・バッハゾリステン、シュトゥットガルト・バッハ合奏団、ゲヒンゲン聖歌隊、聖トマス教会聖歌隊、ＲＩＡＳ室内合唱団等の演奏会に度々出演し高い評価を受けている。特にH.ヴィンシャーマン率いるドイツ・バッハゾリステンの演奏会での度々の共演では、その歌唱力、合唱指導力によって絶大な信頼を勝ち得ている。1985 年ザルツブルク音楽祭に招かれ、R.バーダー指揮のモーツァルテウム管弦楽団、ベルリン聖ヘドヴィッヒ聖歌隊とバッハ・マニフィカト等を共演、絶賛を博した。在独中はヴェストファーレン州立歌劇場等で「グリゼルダ」のコッラード、「フィデリオ」のヤッキーノ、「コシ・ファン・トゥッテ」のフェランド役で出演。現在までリサイタル 21 回を数え、レコード・ＣＤも多数リリース、またテレビ、ＦＭ等にも度々出演している。1970 年東京芸大バッハ・カンタータ・クラブの創設に携わり、多くの後進を育てるとともに指揮者としての活動を開始。以後、約 30 年にわたって主に宗教曲の演奏に冴えをみせ、そのいずれもが名演の誉れ高い。特に盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団等を率いての 6 度にわたるドイツ公演では『シュッツ、バッハの世界的担い手』とした最大級の賛辞が新聞各紙に掲載され、1993 年のヴィンシャーマンとのマタイでは『マタイ演奏史上、最も特筆されるべき演奏の一つ』、また 1995 年のＪ.ツィルヒとの天地創造では『音楽と言葉の見事なまでの融合』と、その音楽作りが絶賛された。1987、88 年には、リリング音楽監督のバッハ・アカデミーにてＴｅｎ.マスタークラスの講師を務め、またコダーイ・サマースクールや古楽サマースクール等でも指導講師に招かれるなど、その指導力については世界的に定評がある。1994 年、長年にわたる顕著な演奏・教育の業績に対し、第 47 回岩手日報文化賞（学芸部門）が贈られ、また本年 8 月にはアメリカ・イオンド大学より名誉博士号が授与された。現在、岩手大学教育学部音楽科教授。二期会会員。グルッペ・ベッヒライン会員。日本声楽発声学会理事。日本発声指導者協会常任理事。仙台バッハ・アカデミー理事。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団、岡山バッハ・カンタータ協会、岩手大学合唱団、東北大学混声合唱団各常任指揮者。

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン　（合　唱）
Morioka Bach Kantaten Verein

1977 年「カンタータを歌う会」として発足。以来、一貫してＪ.Ｓ.バッハの作品を中心としたドイツ・バロック合唱曲の研究、演奏を行っている。その演奏が、1991 年ドイツにおいて「作品の語感、音、そして精神の完熟」という現地新聞の批評を受けるに至るまでには常任指揮者、佐々木正利のドイツ・バロック音楽に対する卓越した見識に基づく、熱意溢れる指導の積み重ねがあった。佐々木は超一流のエヴァンゲリストとして評価されるその発音、語感、様式感をもう一つのライフワークである合唱団の育成に注ぎ込み、その結果「＜言葉が生きる＞と＜音楽が生きる＞とは歌の世界では同義語である」というカンタータ・フェラインの音楽信条が演奏上の身上となるに至ったのである。

その後、H.ヴィンシャーマン、H.J.ロッチュ、J.ツィルヒ、岩城宏之等、世界的指揮者との共演を重ね、各指揮者より、ドイツ・バロック音楽を音楽的かつ人間的に表現できる合唱団として、熱い評価を得るようになった。

この評価は、声の充実を追求する合唱団や、古楽器的な歌唱法を駆使して鮮烈な表現を目指す合唱団に与えられるものとは性格を異にする。温かい音色を基調としながら、音楽の刻々と変化する様相を、その時々に相応しいニュアンスで大胆かつ繊細に、確信を持って表現し切ろうとする、あくまで人間バッハへの共感を基調とする合唱団に対してのものなのである。

H.ヴィンシャーマン、ドイツ・バッハゾリステンとは、1991,93,98,99 年に続き、今回が 5 度目の共演。一昨年 11 月には盛岡、昨年 11 月にはドイツ・ボンで、それぞれバッハのロ短調ミサをドイツ・バッハゾリステンと共演し、絶賛を博した。

特別寄稿

“永島陽子さんとの会話”

指揮者　佐々木　正　利

時は今を去る約１ヶ月前の１０月２９日午後１２時２０分。場所は岩手大学教育学部３号館４０９室。何を隠そう小生の研究室である。そこで永島さん[注1)]と私は、目の前のテレビに釘付けになっていた。この時、二人は約１時間にわたって、登場人物の話に耳を澄ましていたのである。この登場人物とは、我等がマエストロ[注2)]ヴィンシャーマン教授。先に放送された（ＩＢＣ岩手放送１１月１１日「いわて大陸」）番組のインタヴューにお答えになっておられた原版のビデオである。

永島さんは私の親友。日本での大学は違うものの同級生であり、全くの同期にデットモルトの音大に入学した学友でもある。尤も、１９８０年にライプツィヒのバッハコンクールで初めてお会いするまでは一面識もなかったのだが、その後、我等が共通の師ヘルムート・クレッチマール教授に憧れ、師の教えを乞うため、永島さんは１０年間住み慣れたウィーンから、そして私ははるばる日本からデットモルトに移住。私が岩手大学に奉職するため帰国する１９８２年の３月まで、家族ぐるみの親しいお付き合いをさせていただいた間柄である。

この日は、折しも恩師クレッチマール教授が、盛岡で公開レッスンをして下さるためにご来盛。永島さんは通訳を務めていただくためのご同行であった。在ドイツ語圏２０数年の永島さんは、当然の如くドイツ語を日本語のように話されるお方。先の番組が「佐々木正利」に焦点を当てたものだっただけに、佐々木のいろんな側面を取材する過程で、何とＩＢＣさんがドイツにまでスタッフを派遣し、ヴィンシャーマン教授へのインタヴューと相なった次第である。返答は当然ドイツ語だから、その字幕作成にあたり私が関与したものであったが、何といっても公共放送、間違った訳をテロップで流すわけにはいかない。そこで永島さんに確認を、ということだったのである。

ビデオを見る永島さん。初めは、やはり恩師であるヴィンシャーマン教授[注3)]をなつかしげにご覧になっておられたが、次第にその熱き話ぶりに引き込まれ、驚愕するやら、感嘆するやら。終いには「佐々木さん、すごーぃ、すごーぃ」を連発されたものだから、私も少々照れくさくなって、はてさて内心申し訳なくもなって、反応にとまどったものである。教授のお話はほとんどがお誉めの言葉ばかり。お世辞半分とは思っても、しかし外国人はあまりお世辞は言わないし、と勝手にいいように解釈したい心理も働いて、我が胸中は複雑なものがあったのだが、永島さんの次の言葉が私を安心させてくれた。「先生の佐々木さんに対するお言葉、ポジティーフなのよねぇ」。ポジティーフ、ドイツ語で“positiv”と書くこの言葉は、<肯定的な><積極的な>ということを意味する。つまり永島さんの感想によると、先生のお話は上辺だけのものではなくて、心からそう思っておられる、積極的に肯定しているように思える、というのである。これはありがたい。うれしい。先の「すごーぃ」発言は、これを指してのものだから、私も素直に永島さんの反応を受け入れよう。そう思った。

この評価は、私だけのものじゃない。回りのみんなに助けられ、育てられたもの。特にも盛岡バッハ・カンタータ・フェラインとは、一心同体も同然だから、フェラインのみんなと共に喜びたい。そんな訳で、この紙面をお借りして、インタヴューの要約をご紹介致したいと思う。このプログラムをお読みになられる方は、何と手前味噌なことよ、と思われるであろうが、今日だけは勘弁していただけないだろうか。何故って、ヴィンシャーマン教授とバッハの４大宗教曲を完遂させる記念の日であるから。そして前回までにも増して、フェラインの人達の意気込みがすごかったことを感じてきたから。だからこそ、教授のこの話はフェラインに捧げたいと思うのだ。訳を補足してくれた永島さんも、心からそう応援してくれている。この日の彼女との会話は、私

の人生の中でも、最も輝いたものの一つであったことを、ここにご報告したい。ヴィンシャーマン先生、ありがとう。ドイツ・バッハゾリステン、ありがとう。そして、フェラインよ、本当にありがとう。

【質問】バッハの歌い手としての佐々木氏のレベルは？

佐々木さんと自分は同じ大学にいました（デットモルト北西ドイツ音楽大学：筆者註）。自分はそこに３８年勤めたのですが、彼はそこでクレッチマールについて勉強したのです。私は彼の声を聞くといつもクレッチマールを思い出します。クレッチマールは世界的に大変有名なバッハ歌手で、３０～４０年前にやはりデットモルトで勉強した人ですが、彼はバッハの全てのオラトリオ、カンタータ、受難曲等を歌われ、出色の福音史家として華々しく活躍なさったんですよ。私のオーボエで何度も共演しましたが、私達二人ともドイツ伝統のバッハ演奏スタイル、つまりバッハゆかりの地、ライプツィヒ聖トーマス教会のカントール注4)を務められてからデットモルトに教授として来られた、クルト・トーマスのもとで研鑽を積んだのです。私は誇りと確信をもって言えるのですが、そこで学んだ佐々木さんは世界的なバッハ歌手となったのです。

【質問】その歌い方にはどんな特徴がありますか？

一般に歌い手としてバッハを勉強するには、ただ声の成長の訓練をするだけではなく、バッハ特有の表現方式やアーティキュレーション等を学ばなくてはなりません。そして、特に大切なのは、とても良い発音、正しい抑揚によったドイツ語で歌はなくてはいけないということです。バッハ歌手になるには、必ずこれを学ばなくてはなりません。またドイツ語には、主音節と副音節の区別が判然とあります。でも日本語にはそれがあまりありませんよね。聞いていると日本語は直線のように平らに感じます。このドイツ語特有の傾向は、後のロマン派になるに従って一層助長されるようになり、高い低いのトーンとしての抑揚が加わってきます。これは自然の波のようで、河のようにうねりながら流れます。そう、歌のメロディもまたしかり。佐々木さんは、このドイツ語の抑揚、強弱やニュアンスをしっかり勉強なされたのです。それは彼が自分で歌うときもはっきり見てとれますが、それだけではなく合唱団への指導でもはっきりやれている。本当にいい仕事をしておられますよ。

【質問】バッハ音楽の指導者としての力量をどう評価しているか？

私は今まで多くのコンサートを盛岡バッハ・カンタータ・フェラインと行ってきました。またパリのユネスコにおける大きな合唱団（これには沢山の岩手大学の学生さんも参加しましたが）ともしかり、しばしば佐々木さんと共演してきたのです。そこでは、マタイやヨハネの両受難曲、ロ短調等を取り上げてきたのですが、私は、練習に取りかかる前に、必ずスコアに注意すべき事柄や、バッハの演奏法、歌唱法等を書き入れたのです。こういった解釈や指導方法には流派というようなものがありますが、日本にはすでに≪佐々木学校≫というものがあるといってよいでしょう。それは、例えば古くは、ライプツィヒには≪Ｇ・ラミン学校≫、≪Ｋ・トーマス学校≫、ミュンヘンには≪Ｋ・リヒター学校≫、今ではシュトゥットガルトの≪Ｈ・リリング学校≫、そして≪Ｈ・ヴィンシャーマン学校≫というのも確かにあると思いますけれども、佐々木さんは日本において全く特別で明確なバッハ演奏法を作り上げました。それは他の指揮者、指導者とは全く違ったレベルのものであります。いや日本にも優れた指導者がいない訳ではありません。例えば、鈴木雅明氏率いるＢＣＪ注5)は、少ない人数の合唱団とオーケストラで、とても素晴らしい音楽をしていますし、合唱に限ってもほぼ完璧に歌っていますが、スタイルという点で私達とは違います。このスタイルにおいては、佐々木さんと私とは、はっきりと共通のものを有しているのです。佐々木さんはドイツ伝統の音楽語法を見事に発展させて下さいました。大きな合唱団を組織し、決して小さくはないオーケストラと、バランスよく緻密なアンサンブルを織り成せるよう訓練したのです。我々のオーケストラは古楽器ではなく現代にある楽器、つまり音量や表現力が豊かですから、決して小さくない合唱団の方が合うと思います。しかも彼の指導、指示の質はといえば、例えば盛岡の合唱団をみてもお分かりのとおり、驚

くべき高いものです。そして、その最上級の演奏を生み出すのは次に述べることも関与しています。すなわち彼は演奏会の約１年前に私のところにやってきて、私の指示や考え方、演奏法、歌唱法、アーティキュレーション等をびっしり書き込んだスコアを勉強していきます。それらの指示はオーケストラに対するものと全く同じですが、佐々木さんの合唱団は我々のオーケストラと遜色ない出来映えをみせてくれるのです。誠にもって素晴らしいことなのですが、とりわけ盛岡の合唱団は抜きん出ていて、常に私と一体となり、そこには境界線といったものは存在せず、オーケストラへの指示を全く完璧なまでに合唱団が表現するので、ああ佐々木さんは私と同じ考えで指導しているんだなという気持になり、幸せになります。

【質問】日本の盛岡という地方都市でバッハの合唱に取り組まれているということをどう思うか？。

前にも話しましたが、私はデットモルトで長い間教鞭をとってきましたし、そこで佐々木さんも学ばれた訳ですが、そのデットモルトも地方都市なのですよ。でもデットモルトの音大は、少なくとも戦後のドイツでは一番レベルの高い音大なんです。盛岡は地方都市といっても、もう大都市と地方都市の中間に位置していると思うのですが、都市の質については、今音楽を抜きに語ってみると、例えば産業の数だとか、何人住んでいるだとか、大きな大学があるだとかによって語られることが多いですね。しかし、どんな都市であっても、行政府が、技術的なことにせよ、芸術的なことにせよ、両者を一体として育て上げていかねばなりません。産業にしろ、音楽大学や総合大学にしろ、そこから派出されるものから、住民が人間として成長し、勉強できるものでなくてはなりません。人々が音楽に感激し、音楽を楽しみ、お医者さん法律家も学生も、一つの合唱団に集い合い、幸せにも若者から塾年者まで混ざり合い、みんなで音楽を享受する。家庭の主婦や他にしっかりとした職業をもっている男性諸氏も、演奏会の度ごとに喜々として練習にかけつける。これはいつも注目に値すると思っているのですが、盛岡は常にしっかりとコンサートの準備を行い（音楽だけでなく）、毎回同様の周到さをもって音楽会に臨まれているのです。私は思うのですけれども、地方都市としての盛岡は、我がデットモルトと同じで、私も佐々木さんもそこで音楽を育て上げてきたのですが、その音楽への熟達度は目を見張るものがありますよね。これをみていると、私は地方都市が大都市を導くことを現実として納得しますし、要は音楽的な才能をもった人がどれだけ合唱団に入って歌っているか、どれだけみんなが楽しみをもって歌っているか、ということなのではないでしょうか。往々にして、大都市はいろいろやるべきことや興味を引かれることなどが多く、時間的にもゆとりがなく、合唱一つに集中できにくいというきらいがあります。勿論、大都市には大きな合唱団も複数存在し、ドイツでもベルリンやハンブルクやミュンヘンにも優れた合唱団はありますけれども、それでもやはり、地方都市の合唱団の方が良い音楽をしている例を沢山みますね。

【質問】過去のバッハ・カンタータ・フェラインとの共演の感想は？。特に前回のロ短調ミサはどうだったか？

まず最初に言えることは、私達が一緒にやったロ短調ミサは、それこそ驚嘆すべきレベルのものであったということです。まあこうした合唱の大曲、難曲は、例えばベートーヴェンのミサソレムニス等もあるのですが、直に「ロ短調ミサ」で佐々木さんと仕事をしたということが重要です。その演奏は、正にこれ以上ないほどの本物の音楽、そして並々ならぬ成果を挙げたというものでした。私達は今までに、このロ短調ミサをパリのユネスコで、またドイツでも２回、そして盛岡でもやったわけですが、佐々木さんは私に勝るとも劣らぬ音楽性を発揮して下さり、また理解力にも優れ、私と同じ解釈にたち、これは特別はっきりと申し上げたいのですが、毎回の演奏会に臨むに際し、一度たりとも佐々木さんと私の間に考えの相違はなかったのです。いつも私は、事前に佐々木さんに対してテンポ、フレージング、アーティキュレーション等を提案するのですが、彼はそれを驚くべき高水準にまで高めてくれるのです。それがこのロ短調では一層顕著なものであったということを申し上げておきましょう。

【質問】佐々木正利氏の人間性についてのあれこれを

私はしばしば日本人と仕事をしますが、時々問題も感ずることがあります。私にとって日本人は友達ですが、時に注意深さを必要とする場合もあります。彼等と一緒の仕事ではとても友好的、かつ素晴らしい成果が期待できます。ですから、例えば演奏会終了後には、みんなで喜びを分かち合い、カンパーィ！（ここだけ日本語で話されました筆者註）を行い、素晴らしいパーティに溶け込みますが、一方一度ヴィンシャーマンが家路に着くと、それから何と２年もの間、彼等からの音沙汰が途絶えてしまうことがあるのです。佐々木さんも時々そうですけれどね（笑）。尤も、佐々木さんだって一人じゃないし、他の仕事や他の音楽家達とのお付き合いもあるでしょうから…。私は、日本では梶本音楽事務所の所属なんですが、日本で演奏をする場合、梶本と綿密な打ち合わせ、コンタクトをとるのですけれども、大抵２年毎に日本を訪れますが、そこだって１年から１年半はなしのつぶて。その後やっとコンサートツアーのアイデアや計画が話し出され、それからやっと活気づき、ファックスをやりとりしたり、電話で相談したり。私には親密への憧れがあるのですが、このように時にはじっと辛抱しなければならない時もあるのです。ああ、でも私は彼等のことを決して悪く思っているのではありませんよ。そうそう、佐々木さんの人間性についての話でしたね。私の感想は、彼はとても素晴らしい人間であり、私のように心温かく、愛情にあふれている人だと思います。ちょっと見だけでなく中身も大変優れていますから、佐々木さんとコンタクトをとる時はとても幸せな気分になります。私達は一度まみえると、そう、すぐに一体となり、同じ考えのもとで共同体になることができるのです。ですから、最後にもし私の願い、希望を述べることを許して下さるなら、できるなら私は、佐々木さんともっともっと親しい距離にいたいものだなぁと思いますね。

［以上、インタヴュー終わり］

ビデオを見終わった後も、永島さんとの会話は弾んだ。私達は何て幸せもんなんだろうって。ヴィンシャーマン先生やクレッチマール先生等のお膝下で薫陶を受けることができ、今も尚、先生方と音楽ができるなんて。その先生方も、まだまだお元気とはいえ、いつまで教えを受けられるか分からない。今のうちに先生方の持っておられるものを一つでも多く吸収しなければねって。そして、かつて先生方が私達にして下さったことを、今度は私達が後輩達にしてあげねばならないねって。そう、私達はＫ・トーマスの孫弟子なんだから、ドイツの正統的な伝統を受け継いでいかねばならないって。だって、とっくにドイツ音楽の伝統は世界全体の遺産となっているんだもの、我々日本人がそれを継いでも決しておかしいことではないはずだよね！、とお互いの目が語っていたものである。永島さんも私も熱中すると回りが見えなくなる質（たち）。結局その日、午後の公開レッスンに遅刻してしまった。

注１）　永島陽子さん：桐朋学園大学、ウィーン国立音楽大学、デットモルト北西ドイツ音楽大学をそれぞれ最優秀で卒業。ドイツ演奏家国家試験修了。現在桐朋学園大学講師。

注２）　マエストロ：イタリア語 maestro で先生の意。音楽界では世界的な大指揮者に対して、巨匠の意で使われる。

注３）　ヴィンシャーマン教授：デットモルト北西ドイツ音楽大学の教授を３８年務められたオーボエ界の大巨匠。私達も在学時代より室内楽やアンサンブルの授業で薫陶を受けた。

注４）　カントール：ドイツ語 Kantor で聖歌隊指揮者を指す。特にバッハもその任に就いたライプツィヒ聖トーマス教会のカントールは、バッハ演奏家の憧れの職であった。

注５）　ＢＣＪ：バッハ・コレギウム・ジャパンの略。今をときめく鈴木雅明氏を音楽監督に据え、古楽器と絶妙な小編成アンサンブルで見事なバッハを聞かせてくれる。

プログラム・ノート

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン
第二コンサートマスター　佐々木　幹　雄

1. バッハの生涯と教会音楽

J.S.バッハは、ドイツ初期バロック最大の音楽家H.シュッツ(1585-1672)生誕の年からちょうど100年後にあたる1685年に、ドイツのチューリンゲン地方にあるアイゼナハという小都市に生まれた。音楽家を多数輩出しているバッハ一族に生まれたため、幼少から音楽的な環境におかれており、成長してからは作曲のみならず器楽奏者、とりわけオルガンの演奏に長けていた。

18歳(1703年)でアルンシュタットの新教会オルガニストの職を得た後、22歳の時(1707年)にはミュールハウゼンのブラージウス教会オルガニストに、翌年にはヴァイマルの宮廷オルガニスト兼宮廷楽師と歴任した。その間、多くのオルガン曲やカンタータを作曲した。そして1714年には楽師長に任命され、毎月新作の教会カンタータの演奏が義務づけられるようになり、声楽曲も作曲するようになった。

1717年、バッハ32歳の冬から６年間はケーテンの宮廷楽長をつとめながら世俗カンタータやブランデンブルク協奏曲等多くの器楽曲を作曲し、その後38歳(1723年)から1750年に65歳で他界するまで、ライプツィヒの聖トーマス教会のカントル(聖歌隊の指揮者兼教会付属学校の教師)兼ライプツィヒ市音楽監督を27年間つとめた。ここでは赴任から２年間、ほぼ毎週のように教会カンタータを作曲・演奏するほど教会音楽に精力的に取り組んだ。

バッハの「オラトリオ」と題された作品は今日３つ残っている。それらは作曲順に『復活祭オラトリオ』(BWV249 1725年初演、その後32年、35年に改作)、『クリスマス・オラトリオ』(BWV248 1734年)、『昇天祭オラトリオ』(BWV11 1735年頃)となっている。いずれも、ライプツィヒでの作曲であり、1735年前後に作曲あるいは改作が行われていることがわかる。すなわち、バッハは50歳という壮年期を迎えて、「オラトリオ」という新しい世界への挑戦を始めたと言えよう。

2. カンタータと『クリスマス・オラトリオ』

このライプツィヒ時代には多くのカンタータが作曲された。カンタータとは、器楽伴奏を伴う独唱ないし合唱曲から構成されるものである。ルター派教会の礼拝において「音楽による説教」の役目を果たす「教会カンタータ」と呼ばれるものと、貴族や市民の祝賀のための音楽である「世俗カンタータ」と呼ばれるものとに分けることができる。

教会カンタータは今日約200曲（実際にはそれ以上の数が作曲されたが、その多くが失われた）近く残されているが、これらの多くはライプツィヒにおけるトーマス・カントルとしての仕事の成果であった。なぜなら、バッハはライプツィヒに移って以来、教会における主要な祝日に加え毎週日曜日に行われる礼拝のためにカンタータを作曲したからである。

そのうち、1734年12月のイエス・キリストの降誕節（クリスマス）第１日、第２日、第３日、翌年１月の新年、新年後第１日曜、顕現節といった教会歴に、ライプツィヒの教会（聖トーマス、聖ニコライの両教会）で初演された６つのカンタータが、本日演奏するプログラム『クリスマス・オラトリオ』として伝承されてきた。いわば「連作カンタータ」である。バッハ49歳の時の作品である。

この『クリスマス・オラトリオ』はすべてが新しく作曲されたわけではない。ここに含まれる全64曲のうち、各部の冒頭合唱やアリアのほとんどが、旧作の改作によって作られている。この改作とは、歌詞や調あるいは伴奏楽器を変えるといった方法でなされるもので、部分的に旋律やリズムにも手を加えることがある、このような改作の手法を「パロディ」と呼ぶ。

3. 『クリスマス・オラトリオ』とパロディ

では、どの曲が新曲でどの曲がパロディによってつくられたのだろうか。

まず、エヴァンゲリスト（福音史家）やソプラノ・レチタティーヴォ（天使）および合唱（羊飼いたちや東方の博士たち）など、聖書の文言をテキスト（歌詞）とする曲、コラール、第２部冒頭のシンフォニア、第３部アルトのアリア（第31曲）および第６部以外の伴奏つきレチタティーヴォは新作である。一方、それ以外の伴奏つきレチタティーヴォ、アリア、冒頭合唱が旧作のパロディであると考えられている。

パロディーのもとになった作品と『クリスマス・オラ

トリオ』との関係を次に示そう。

○[BWV213]『*われらにまかせて、見張りをさせよ Laßt uns sorgen, laßt uns wachen[岐路のヘルクレス]*』

1733年9月ザクセン皇太子フリードリヒの誕生日に初演された世俗カンタータ。この作品の（レチタティーヴォをのぞく）冒頭合唱と５曲のアリアすべてが、『クリスマス・オラトリオ』の第36曲（第４部冒頭合唱）および第19、39、41、４，29曲に転用されている。

○[BWV214]『*太鼓よとどろき、ラッパよ響け Tönet, ihr pauken! Erschallet, Trompeten!*』

1733年12月、ザクセン選帝侯妃の誕生日に初演された世俗カンタータ。この作品からは２つ合唱と２つのアリアが、第１曲（第１部冒頭合唱）、第24曲（第３部冒頭合唱）および第15、８曲に転用されている。

○[BWV215]『*恵まれたザクセン、おまえの幸いを讃えよ Preise dein Glücke, gesegnets Sachsen*』

1734年10月、ザクセン選定候フリードリヒ・アウグスト２世のポーランド王即位記念日用の世俗カンタータ。ここからは１つのアリアが、第47曲に転用されている。

○[BWV248a] *（失われた教会カンタータ）*

『クリスマス・オラトリオ』第６部はなんらかのカンタータの全面的なパロディーであろうと考えられている。そこで想定されたのがこの作品である。合唱、アリア、レチタティーヴォを含む７曲が、第６部の第54、56、57、61、62、63、64曲に転用されたと考えられている。

○[BWV247] *（失われた）『マルコ受難曲』*

この作品からも合唱曲が転用されたと推定されている。第43曲（第５部冒頭合唱）および第45曲である。

○*原曲不明のアリア*

『クリスマス・オラトリオ』第５部の第51曲のアリア（三重唱）が、なんらかのアリアの転用であろうと考えられている。

4. ストーリー性を備えた『クリスマス・オラトリオ』

この『クリスマス・オラトリオ』が６部から成る連作カンタータであることはすでに述べた。しかしこの６つのカンタータは単に羅列してるのではな、その６つの部分が全体として一つのオラトリオを形成している。

オラトリオとは、聖書から題材をとったテキストにある程度の物語性をもたせたものを内容とし、それを音楽的に表現したものである。バッハ時代のドイツのプロテスタント教会においては「ヒストーリア」というタイプの宗教曲があった。これはキリスト教の主要な祭日に教会で演奏されたもので、聖書の文言をそのままテキストとしてそれに音楽付けをして作られた物語的な内容の音楽である。バッハはこのヒストーリアを拡大し、宗教詩人のつくった自由詩を聖書の文言の間に挟み込み、それらをアリオーソやアリアあるいはコラールや合唱というような独立した曲として作曲した。これは、教会に集う会衆の感情に訴え、聖書の言葉がもつ意味をよりわかりやすくすることをねらってのことであった。

『クリスマス・オラトリオ』における自由詩の作詩者は不詳であるが、おそらくピカンダー（本名はクリスティアン・フリードリヒ・ヘンリーツィ 1700-1764）であろう。『クリスマス・オラトリオ』は多くのパロディーによって成立しているので、ピカンダーとバッハが協議を重ねながらテキストを作成したのではないかと考えられている。

『クリスマス・オラトリオ』のもつストーリーを支えているのは、『ルカによる福音書』第２章第１節から21節、および『マタイによる福音書』第１章第１節から第12節に記されている、イエス・キリストの降誕にまつわる物語である。それはいくつかの出来事から成っていて、それらの出来事をテーマとして各部が成立している。イエス誕生の直前にマリアとヨセフがベツレヘムに帰ったこととイエスが誕生したことは第１部のテーマ、天使による羊飼いたちへのイエス誕生の告知は第２部、羊飼いたちのベツレヘム訪問が第３部、「イエス」と名付けられたことが第４部、ヘロデ王の不安とおののきは第５部、東方の博士たちのイエス訪問は第６部のそれぞれのテーマとなっている。

5. 『クリスマス・オラトリオ』に用いられている曲種

これまで特に断らずに「エヴァンゲリスト」や「レチタティーヴォ」といった語を用いてきた。ここではそれらの曲種の特徴について述べる。

『クリスマス・オラトリオ』でまず基本となるのは「エヴァンゲリスト」である。これは福音史家つまり「福音書を朗読する人」という役割でテノールのソリストが担当する。通奏低音のみの伴奏で語るように歌われる（あるいは「歌うように語られる」とも表現できよう）。これをセッコ・レチタティーヴォとも言う。エヴァンゲリストは聖書の記事を報告すると同時にクリスマスのストーリーを進める「語り手」としての役目も果たしている。また、同じく聖書の言葉であっても、天使や羊飼いといった役割が比較的はっきりしている場合、バッハはテノール以外に歌わせることもあった。天使の言葉はソプラノ、羊飼いたちや天の軍勢は合唱、ヘロデ王はバスといった具合である。

次に「アリア」である。これは福音書の言葉ではない、宗教詩人によって書かれた自由詩をテキストとし、主に聴き手個人の感情に訴えかける内容である。音楽も技巧

的で、器楽の伴奏やオブリガート楽器を伴うことも多い。様式的にはＡＢＡのダ・カーポ形式で書かれており、曲の前半部分を最後に繰り返すといった構造をもつ。

同様に、聴き手つまり教会に集ったキリスト教徒の共同体としての会衆全体の感情を代弁する役目の音楽として「コラール」がある。これは主に合唱（場合によってはソプラノ）によって演奏されるもので、ドイツ・プロテスタント教会の伝統的な賛美歌である。

また、エヴァンゲリスト以外の歌う「伴奏つきレチタティーヴォ」であるが、これは主に前述のエヴァンゲリストのレチタティーヴォとアリアおよびコラールを、テキストの上でもまた音楽の上でも橋渡しする。聖句に対する注釈的な役目を担うことが多く、曲としては短いが器楽伴奏付きで説得力のある音楽づけがなされている。

最後に、冒頭におかれている合唱（第２部にあってはシンフォニア）である。これらは、それぞれの部がテーマとしている内容を象徴的にとりあげた音楽で、各部の導入としての役割を果たしている。

以上見てきたように、さまざまな曲種を巧みに利用して各部のテーマ、ひいてはイエス・キリスト降誕という全体のテーマを音楽的に表現することにバッハは成功していると言えよう。

6. 各部の概要

以下では、各部のもつテーマにどのような音楽づけがなされ、福音書の聖句からなにを取り上げているのか、あるいは前後の曲とどのような連関がつくりだされているのかといったようなことについて、順を追って概観する。

なお、箱囲みはその部分の内容上のテーマ、その下には各曲のデータを記す。かっこ内はおおよそ次のように並記してある。

[第○曲 曲種（声部、調と拍子、特徴的な伴奏楽器）]

●第1部 『歓呼の声をあげよ!いざ、この日をほめたたえよ!』

これは12月25日、教会歴における降誕節第１日用のカンタータである。器楽編成は、トランペット３本、ティンパニ、フルート２本、オーボエ２本、そして弦楽と通奏低音といったように、比較的規模が大きい。

ヨセフとマリアのベツレヘムへの帰郷

第1曲 **合唱**（合唱、二長調 3/8、全奏）
第2曲 **レチタティーヴォ**（福音史家）
第3曲 **レチタティーヴォ**（アルト、オーボエ・ダモーレ）
第4曲 **アリア**（アルト、イ短調 3/8、オーボエ・ダモーレ、ヴァイオリン）
第5曲 **コラール**（合唱、イ短調 4/4）

ティンパニとトランペットが高々と鳴り響く、壮麗な冒頭合唱で幕が開く。これから始まるイエス・キリスト降誕の物語に対する喜びを歌い上げる。

続くエヴァンゲリストがマリアとヨセフのベツレヘムへの帰郷の記事を語ると、その話を中断するかのように、それは待ち望んでいたキリストの誕生の兆しであるとアルトがシオンに語りかけるレチタティーヴォが続く。シオンとは、旧約聖書による表現ではユダヤの聖地エルサレムを人称化した表現であり、キリスト教徒の魂を象徴する呼称である。続くアリアは、喜ばしいイエスの誕生という事態に備えるようにとシオンに歌うアルトのアリアである。この２曲はいずれもオーボエ・ダモーレの伴奏でアルトが歌うというスタイルによって統一感が形成されるようになっている。

これを受けて、会衆がイエスを迎える期待をコラールで表現する。このコラールのテキストはＰ．ゲールハルトの待降節（クリスマスを迎える前の時期、アトヴェント）のコラール(1653)第１節であるが、旋律はハスラー作曲の受難節用コラールのものが使われている。私たち人間の罪を背負って十字架につけられるためにイエスが誕生したという神学的な解釈をバッハが表現しようとしていたことがわかる。

家畜小屋でのイエスの誕生

第6曲 **レチタティーヴォ**（福音史家）
第7曲 **コラール**(ソプラノ)と**レチタティーヴォ**(バス)(ト長調 3/4-4/4、オーボエ・ダモーレ)
第8曲 **アリア**（バス、ニ長調2/4、トランペット、フルート、弦楽）
第9曲 **コラール**（合唱、ニ長調 4/4、全奏）

次にエヴァンゲリストは、イエスの誕生の記事を語る。家畜小屋で布にくるまれて飼い葉桶に寝かせられるというような貧しい姿でこの世に降誕したイエスの誕生を、短いながら丁寧に告げる。ここでも聖句と間をおかずにオーボエ・ダモーレの美しい二重奏に導かれてソプラノによって待降節のコラール（ルターによる待降節コラール『讃美を受けたまえ、汝イエス・キリストよ』(1524)第６節）が歌われる。しかし、その途中途中に注釈を加えるようにバスのレチタティーヴォがからむ。続くアリアでは、飼い葉桶という王らしからぬ場所での誕生であるが真実の王であるからこそ現世の虚飾は不要なのだと、バスが「王の楽器」であるトランペットとともに確信に満ちて歌う。

そして会衆が、そのようにして誕生したイエスのことを自分たちの心の中にずっと抱き続け忘れないとコラール（ルターによる有名な降誕節コラール『高き天よりわ

れは来たり』(1537)第13節）で表現し、喜びと希望に満ちて第１部を閉じる。

●第2部『さて、この地方の野で羊飼いたちが』

この第２部は12月26日、降誕節第２日用のカンタータである。器楽編成はフルート２本、オーボエ・ダモーレ２本、オーボエ・ダ・カッチャ２本、そして弦楽と通奏低音である。

天使による羊飼いたちへのイエス誕生の告知

第10曲 **シンフォニア**（器楽のみ、ト長調 12/8、全奏）
第11曲 **レチタティーヴォ**（福音史家）
第12曲 **コラール**（合唱、ト長調 4/4）

冒頭は全奏によるシンフォニアである。田園的な雰囲気のパストラーレで、羊飼いのいる牧歌的な場面を設定をする。フルートおよびヴァイオリンが４本のオーボエ類と対立的に登場するが、両者の間隔はしだいに近づき寄り添うようになる。

エヴァンゲリストが、野で夜通し羊の番をしている羊飼いたちの目の前に天使たちとそれをとりまくまばゆいばかりの主の光があらわれ、彼らがその光に恐れたことを語る。するとコラール（Ｊ．リストの降誕節コラール『目覚めよ、わが弱き心よ』(1614)第４節）が、恐れることはないと、輝くように歌い出して、その光の意味を説く。

第13曲 **レチタティーヴォ**（福音史家、天使(ソプラノ)、弦楽）
第14曲 **レチタティーヴォ**（バス、オーボエ・ダモーレ、オーボエ・ダ・カッチャ）
第15曲 **アリア**（テノール、ホ短調 3/8、フルート）

続いて羊飼いたちに告げられた天使の言葉がソプラノによって語られる。するとバスが、これは旧約時代のアブラハム以来の約束の成就なのだと説く。そこでフルートの技巧的なオブリガートを伴ったテノールのアリアは、羊飼いにイエスの誕生を急いで見に行くようにと勧めるのである。

第16曲 **レチタティーヴォ**（福音史家）
第17曲 **コラール**（合唱、ハ長調 4/4、全奏）
第18曲 **レチタティーヴォ**（バス、オーボエ・ダモーレ、オーボエ・ダ・カッチャ）
第19曲 **アリア**（アルト、ト長調 2/4、フルート、オーボエ・ダモーレ、オーボエ・ダ・カッチャ、弦楽）

今度はエヴァンゲリストが天使の言葉を続け、飼い葉桶に寝ているイエスを見るだろうと告げると、待降節のコラール（Ｐ．ゲールハルト『見よ、見よ、奇跡の何たるかを』(1667) 第８節、旋律は第９曲と同じ)がその幼子を眺める喜びを歌う。さらにバスが、見に行って平穏の歌を歌うようにと羊飼いに命じる。ここではチェロがしだいにゆりかごの動きを模した音形に変わっていく。それを受けてアルトが、幼子イエスに愛情を込めた子守歌を歌う。

第20曲 **レチタティーヴォ**（福音史家）
第21曲 **合唱**（合唱、ト長調 2/2、全奏）
第22曲 **レチタティーヴォ**（バス）
第23曲 **コラール**（合唱、ト長調 12/8、全奏）

ここでエヴァンゲリストは、羊飼いたちの前にいた天使のもとに天の軍勢が集まって歌ったことを告げると、合唱が天使と天の軍勢の歌ったグローリアの賛歌を表現する。これを聞いてバスは、私たちもともに歌おう、と旧約以来の預言の成就を喜ぶ。そして合唱がともに歌う喜びをコラール（Ｐ．ゲールハルトの降誕節コラール『われら汝に向かいて歌う、インマヌエルよ』(1653)第２節）で歌う。このコラールでは各節の間奏に冒頭のシンフォニアの一部が再び使われるが、ここではフルートとオーボエは完全に一致して第２部をしめくくる。

●第3部『天上の君主よ、舌足らずな歌に耳を傾けたまえ』

これは12月27日、降誕節第３日用のカンタータである。器楽編成は第１部と同じで規模が大きく、クリスマス三が日の、そしてオラトリオ前半の締めくくりともなっている。

羊飼いたちのベツレヘム訪問

第24曲 **合唱**（合唱、ニ長調 3/8、全奏）
第25曲 **レチタティーヴォ**（福音史家）
第26曲 **合唱**（合唱(羊飼いたち)、イ長調 3/4、フルート、オーボエ・ダモーレ、弦楽）
第27曲 **レチタティーヴォ**（バス、フルート）
第28曲 **コラール**（合唱、イ長調 4/4）
第29曲 **二重唱**（ソプラノとバス、イ長調 3/8、オーボエ・ダモーレ）

冒頭の合唱は、神への感謝と讃美が輝かしい音色と自由な対位法をもって表現される。

短いエヴァンゲリストに続いて合唱が聖句である羊飼いたちの言葉を表現する。ここでは羊飼いたちの期待感を表すようなフルートの細かい音符のオブリガートが伴う。引き続きバスが、これは主の慰めであり救いであると説き羊飼いたちを後押しする。すると合唱が、主のなされたことすべてに対して共同体としての感謝のコラール（第７曲と同じくルターによるもの。第７節）を歌う。続くアリアはソプラノとバスの二重唱で、主の思いやりや慰めといった愛に対する感謝を歌う。

イエスとの出会い

第30曲 レチタティーヴォ(福音史家)
第31曲 アリア(アルト、ロ短調 2/4、ヴァイオリンのソロ)
第32曲 レチタティーヴォ(アルト、フルート)
第33曲 コラール(合唱、ト長調 4/4)

続いてエヴァンゲリストが、羊飼いたちがベツレヘムに着いてイエスと出会ったことおよび羊飼いの言葉に対してマリアが思いをめぐらしたことを語ると、続くアルトが内省的なアリアと次の確信に満ちたレチタティーヴォでマリアの心情を歌う。そこで合唱もマリアの心情に同化し、私たちもずっと神とともにあるのだと喜びと決意のコラール（P．ゲールハルトの降誕節コラール『わが心は朗らかに飛び跳ね』(1652)第15節）を歌う。

第34曲 レチタティーヴォ(福音史家)
第35曲 コラール(合唱、嬰ヘ短調 4/4)
第24曲 合唱(合唱、ニ長調 3/8、全奏)

最後にエヴァンゲリストが羊飼いたちが神を讃美しながら帰ったことを告げると、第３部のしめくくりとしてイエス・キリストの降誕を喜ぶコラール（Ch. ルンゲの降誕節コラール『恐れと悩みを去らせ』(1653)第４節）が歌われ、もう一度冒頭の感謝と讃美の輝かしい合唱が歌われる。

●第4部 『いと高き恩寵の王座の前に感謝し、讃美をもってひれ伏せよ』

後半の３つの部は年が明けてから演奏される。この第４部は１月１日、新年用のカンタータである。器楽編成はホルン２本、オーボエ２本、弦楽、通奏低音と、落ち着いた響きをもつ。

イエスの割礼と命名

第36曲 合唱(合唱、ヘ長調 3/8、全奏)
第37曲 レチタティーヴォ(福音史家)

冒頭の合唱はこれまでの３つの部と趣を異にしたホルンの響きで始まる。新年の初めの日にふさわしい新しい響きの中で主への感謝が歌われる。

続いて、第４部唯一のエヴァンゲリストの登場である。ここではユダヤのしきたりに基づいて幼子が割礼を施され、「イエス」と命名されたことが告げられる。これはルカによる福音書にある聖句であるが、マタイによる福音書には「その名はインマヌエルと呼ばれる。この名は神は我々と共におられるという意味である。」という旧約聖書のイザヤの預言からの引用がある。この第４部は、この「イエス」および「インマヌエル」という名前をめぐって展開する。

第38曲 レチタティーヴォ(バス)とコラール(ソプラノ)(弦楽)
第39曲 アリア(ソプラノとエコー、ハ長調 6/8、オーボエ)
第40曲 レチタティーヴォ(バス)とコラール(ソプラノ)(弦楽)
第41曲 アリア(テノール、ニ短調 4/4、ヴァイオリン)

続くバスのレチタティーヴォは、「インマヌエル」および「イエス」という名前に対する喜びを歌う。その語りにソプラノのコラール（J．リスト『イエス、こよなく尊きわが生命よ』(1642)第１節前半）が割り込んできて十字架に言及すると、死に直面したときにこそイエスは自分と共にあって恐れを取り去ってくださるのだとバスが力強く歌う。そこでソプラノのエコーをともなったアリアでは、主に呼びかけ尋ねながら、「死を恐れることはないのだ」という確信を得る。再びバスのレチタティーヴォにソプラノのコラール（第39曲と同じコラールの第１節後半）がからみながらイエスという御名の喜びを歌う。そこでテノールが技巧的な２つのヴァイオリンを伴って登場し、主の栄光のみのために生きるという決意を歌う。

第42曲 コラール(合唱、ヘ長調 3/4、全奏)

最後に、再び登場したホルンの響きと共に会衆の祈りとしての新年用コラール（J．リスト『助けたまえ、主イエスよ』(1642)第15節）が、イエスは常に自分と共にあり自分の思いの内にいるのだと歌われて、第４部を閉じる。

●第5部 『神よ、御身に栄光が歌われてあれ』

第５部は新年後の最初の日曜日用のカンタータである。したがって、用いられる日にちは固定されていない。器楽編成は、オーボエ・ダモーレ２本と弦楽および通奏低音と小規模である。

真の王イエスの誕生とその輝き

第43曲 合唱(合唱、イ長調 3/4、全奏)
第44曲 レチタティーヴォ(福音史家)
第45曲 合唱(東方の博士たち)とレチタティーヴォ(アルト)(ロ短調 4/4、オーボエ・ダモーレ、弦楽)
第46曲 コラール(合唱、イ長調 4/4)
第47曲 アリア(バス、嬰ヘ短調 2/4、オーボエ・ダモーレ)

冒頭の合唱は軽快で心躍る３拍子による華やかな雰囲気のうちに神の栄光を讃える歌である。

そしてエヴァンゲリストは、ヘロデ王のいるエルサレムに東方から博士たちがやってきたことを告げる。続く合唱は、真の王として新しく誕生したイエスをさがして星を追って来たという東方の博士たちの言葉を歌う。その言葉に対してアルトが、その輝きは自分の内に求めよと呼びかけ、救い主の輝きは異邦人にも及ぶのだと注釈

を施す。すると輝かしいコラール（G．ヴァイセルによる顕現節コラール『今ぞ、愛する魂よ、時が来たり』(1642)第５節）が、真の王の輝きは闇を光にかえる、とその素晴らしさを説く。するとバスの、あなたの言葉こそが私の光なのだと祈るアリアが続く。

ユダヤ王ヘロデの不安と恐れ

第48曲 レチタティーヴォ（福音史家）
第49曲 レチタティーヴォ（アルト、弦楽）

東方の博士たちの言葉を聞いたヘロデ王とイスラエルの人々の不安をエヴァンゲリストが短く告げると、すぐさまアルトが、恐れるのではなくむしろ喜ぶべき事なのだと語る。ここでは弦楽の伴奏が不安な響きから喜びに変化する。

第50曲 レチタティーヴォ（福音史家）
第51曲 三重唱（ソプラノ、テノール、アルト、ロ短調 2/4、ヴァイオリンのソロ）
第52曲 レチタティーヴォ（アルト、オーボエ・ダモーレ）
第53曲 コラール（合唱、イ長調 4/4、オーボエ・ダモーレ）

不安のためヘロデ王が祭司長や律法学者にイエス生誕の地を尋ね、彼らが旧約聖書の預言を引用して説明する場面をエヴァンゲリストが語ると、ソプラノ、テノールとアルトの三重唱のアリアが不安（ソプラノ、テノール）とそれを打ち消す確信（アルト）を表現する。続くアルトのレチタティーヴォはその確信をさらに強め、コラール（J．フランクによる待降節コラール『汝ら星々、汝ら高き御空よ』(1655)第９節）がその輝きを讃える歌を歌って、第５部をしめくくる。

●第6部 『主よ、高慢な敵どもが息まくとき』

これは１月６日、主顕現日用のカンタータである。器楽編成はトランペット３本、ティンパニ、オーボエ２本、オーボエ・ダモーレ２本、弦楽、通奏低音と、再び規模が大きくなり、オラトリオを締めくくるにふさわしい華やかさを備える。

東方の博士たちのベツレヘム訪問

第54曲 合唱（合唱、ニ長調 3/8、全奏）
第55曲 レチタティーヴォ（福音史家、ヘロデ(バス)）
第56曲 レチタティーヴォ（ソプラノ、弦楽）
第57曲 アリア（ソプラノ、イ長調 3/4、オーボエ・ダモーレ、弦楽）

冒頭合唱は輝かしいトランペットのファンファーレで始まる。ここでは、いかに敵が荒れ狂おうと確かな信仰があれば主の力に守られることが歌われる。

エヴァンゲリストは、ヘロデの策略を告げる。それに対してソプラノのレチタティーヴォが、その策略はすでに見透かされているのだと強い調子で歌い、続く軽やかな調子のアリアで、主の力強さを歌う。主のとてつもなく大きな力の余裕を感じさせるようである。

第58曲 レチタティーヴォ（福音史家）
第59曲 コラール（合唱、ト長調 4/4）

続いてエヴァンゲリストは、東方の博士たちが星に導かれてイエスのもとを訪れて、黄金、乳香、没薬を捧げる場面を語る。コラール（P．ゲールハルトの降誕節コラール『われはここ飼い葉桶のそば、汝の側に立つ』(1656)第１節）はまるでそれを傍らで見ている様子で、私たちのすべてはあなたから贈られたものであり、私たちのすべてを受け入れて下さいと、感謝と祈りを込めて歌う。

第60曲 レチタティーヴォ（福音史家）
第61曲 レチタティーヴォ（テノール、オーボエ・ダモーレ）
第62曲 アリア（テノール、ロ短調 2/4、オーボエ・ダモーレ）

そしてエヴァンゲリストは、博士たちが夢のお告げに従ってヘロデを避けて自国へ帰ったことを告げ物語自体を終えると、テノールのレチタティーヴォが神が自分たちと共にあるという確信と祈りを語り、続くアリアでは、だからこそ自信を持って敵に対することができるのだと、勇ましく確かな歩みの２拍子で歌う。

第63曲 レチタティーヴォ（ソプラノ、アルト、テノール、バス）
第64曲 コラール（合唱、ニ長調 4/4、全奏）

最後に、４声部のソリストが反語的な表現で悟りを宣言すると、合唱がキリストの勝利を宣言するコラール（G．ヴェルナーによる降誕節コラール『汝ら選ばれしキリストの徒』(1648)第４節、旋律は第５曲と同じ受難のコラール）を歌う。ここでは冒頭のトランペットが再び鳴り響く。第６部のみならず『クリスマス・オラトリオ』の全体をしめくくるこのコラールのテキストはクリスマス用のコラールのものであるが、旋律としては受難のコラールが用いられている。この歌詞と旋律の組み合わせは第１部で初めて出てくるコラール（第５曲）と同様に、これまで語られてきたイエス・キリスト降誕の物語は実は受難をもって完結するのだという神学における考え方を音楽によって表現しようというねらいのもとに行われた組み合わせである。そして、バッハはそのことをみごとに表現し得たといえよう。

2000/10/30

Winschermann 先生との共演に想いを馳せて

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン
代　表　渡　辺　信　之

今回の演奏会で、フェラインは Winschermann 先生指揮による Deutsche Bachsolisten との共演が、５度目となる。最初の共演を、私は岩手県民会館の客席で聴衆として聴いた。２度目はバッハのマタイ受難曲であったが、仕事で聴くことができなかった。さらに３度目は一昨年、盛岡市民文化ホール開館記念イベントの一つとして、また４度目は昨年、ドイツのボンなど２都市で、それぞれバッハの「ロ短調ミサ曲」を共演した。そして、５度目となる今回は「クリスマス・オラトリオ」全曲の共演である。

われわれはアマチュア合唱団だから、プロのように楽譜を見たらパッと声が出せて、ことばの意味も理解できて、調和のとれた合唱を行うということはとてもできない。今回のクリスマス・オラトリオは、去年１２月末の最後の練習日に、大「初見」大会とも言える「声出し」に始まり、今日午後のゲネプロまで含めると、全部で 62 回の全体練習を経て本番に臨むことになる。それは毎週火曜夜に市内の教会で行うものであったり、あるいは郊外の宿泊施設に泊り込んでの合宿練習だったりする。

クリスマス・オラトリオは、全体で６部 64 曲から成っているが、その中で合唱だけの曲は 20 曲ある（独唱と掛け合いのものも含めると、もう少しある）。従って、単純に計算すれば、練習３回で１曲ずつ仕上げなくてはならないということにもなり、最初は実行委員会でも、本当とも冗談ともつかないニュアンスではあるが、結構大真面目にそんな話の出たことがあった。もちろん、１曲ずつ順番に仕上げたとしても、少したてばすぐ忘れてしまうわけで、練習３回で１曲・・・、というのは全く「机上の空論」である。

実際は、まず音取りに努める、歌詞の意味を理解して正確な発音を覚える、曲としての全体の構成を理解ながら、さらに細かいアーティキュレーションを習得する、というような段階に分けて、それぞれの段階を、例えば第１クールの練習とか、次回からは３クール目に入るというようにして、練習を積み重ねた。

ところで、通常の合唱の練習では、伴奏はピアノだ。各パートの練習等でピアノがない時は、携帯用の電子鍵盤楽器を使うこともある。実際のオーケストラ演奏の感じを掴みたくて、市販のＣＤを聴くこともちろんあるが、ＣＤの演奏の細かい表現と、普段の練習の内容とは違う部分が多く、あまり一つのものだけを聴き過ぎないほうが良さそうだ。

日々の練習を重ねつつ、オーケストラと最初の合わせのリハーサルを想像すると胸がときめく。何といっても、オーケストラと共に合唱することの楽しさ、心地よさ、そこから湧き上がる一種の感動というのは、参加した者だけが浸ることのできる一つの特権であろう。

今、この原稿を書いている時点で、本番をちょうど１週間後に控え、リハーサル、そして演奏会のシーンをいろいろと想像している。まず、前日のリハーサルでは最初に Winschermann 先生が練習会場に現れ、合唱団員の多くはほぼ１年ぶりの再会となる。上質で、軽やかだが力強いオーケストラの演奏に続き、次の瞬間には合唱との共演が始まるだろう。そういう一連のシーンを瞼に浮かべると、心底ワクワクするのだ。

そして、当日の本番。聴きに来てくださった多くの方々を前に、演奏が始まる。ここ盛岡の地で、フェライン、Winschermann 先生、Deutsche Bachsolisten、そして聴衆の方々が一体になった、たった１回だけの「クリスマス・オラトリオ」全曲演奏会なのだ。

かつての Winschermann 先生との４度の共演に想いを馳せながら、再び「５度目」もすばらしい演奏会となることを確信したい。

歌 詞 対 訳

第 I 部・Am ersten Weihnachtstag

1.Coro

Jauchzet, frohlokket! auf, preiset die Tage,
Rühmet, was heute der Höchste getan!
Lasset das Zagen, verbannet die Klage,
stimmet voll Jauchzen und Fröhlichkeit an !
　Dienet dem Höchsten mit herrlichen Chören,
　laßt uns den Namen des Herrschers verehren!

2.Recitativo（Evangelista）

Es begab sich aber zu der Zeit,
daß ein Gebot von dem Kaiser Augusto ausging,
daß alle Welt geschätzet würde.
Und jedermann ging, daß er sich schätzen ließe,
ein jeglicher in seine Stadt.
Da machte sich auch auf Josepf aus Galiläa,
aus der Stadt Nazareth, in das jüdische Land zur Stadt David,
die da heißet Bethlehem ;
darum, daß er von dem Hause und Geschlechte David war :
auf daß er sich schätzen ließe mit Maria,
seinem vertrauten Weibe, die war schwanger.
Und als sie daselbst waren, kam die Zeit,
daß sie gebaren sollte.

3.Accompagnato（Alto）

Nun wird mein liebster Bräutigam,
nun wird der Held aus Davids Stamm zum Trost,
zum Heil der Erden einmal geboren werden.
Nun wirt der Stern aus Jakob scheinen,
sein Strahl bricht schon hervor.
Auf,Zion, und verlasse nun das Weinen,
dein Wohl steigt hoch empor !

4.Aria（Alto）

Bereite dich, Zion, mit zärtlichen Trieben, den Schönsten,
den Liebsten bald bei dir zu sehn.
　Deine Wangen müssen heut viel schöner prangen,
　eile、den Bräutigam sehnlichst zu lieben!

5.Choral

Wie soll ich dich empfangen,
und wie begegn' ich dir?
O aller Welt Verlangen, O meiner Seelen Zier!
O Jesu, Jesu, setze mir selbst die Fakkel bei,
damit, was dich ergötze, mir kund und wissend sei!

6.Recitativo (Evangelista)

Und sie gebar ihren ersten Sohn
und wikkelte ihn in Windeln
und legte ihn in eine Krippen,
denn sie hatten sonst keinen Raum in der Herberge.

第一部・クリスマス第一祝日（12月25日）

1. 合唱

歓呼の声をあげよ！いざ、この日をほめたたえよ！
いと高き者の、今日なされるみ業をほめたたえよ！
おびえを捨て、嘆きを追い払い
声を限りの歓呼と歓喜に唱和せよ！
　素晴らしき歌声をいと高き者にささげ
　我らの主君のみ名をあがめよう！

2. レチタティーヴォ（福音史家）

そのころ、全世界の
住民登録をせよという勅令が、
皇帝アウグストから出た。
それで、人々はみな、登録のために、
それぞれ自分の町に向かって行った。
ヨセフもガリラヤの町ナザレから、
ユダヤのベツレヘムという
ダビデの町へ上って行った。
彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、
身重になっているいいなずけのマリヤも
いっしょに登録するためであった。
ところが、彼らがそこにいる間に、
マリヤは月が満ちた。

（ルカ 2:1,3-6）

3. 伴奏つきレチタティーヴォ（アルト）

今や私のお慕いする花婿が
ダビデの家出身の勇者が
地上の慰めと救いのために、ただ一度生まれようとしている。
いまヤコブの家から出でた星は輝き、
その光は輝きをを放っている。
さあシオンよ、泣くことを止めなさい、
あなたのの願いが、いまかなえられようとしている。

4. アリア（アルト）

備えなさいシオンよ、やさしい愛の力でこんなにも
美しく、最愛のものをすぐにもあなたのそばに迎えるために！
　あなたの頬は、今日はさらに美しく輝かせ、
　急げ、花婿を慕い、心からの愛でつくすために!

5. コラール

どんな風に私はあなたをお迎えし、
どんな風にあなたにお会いしたらいいのだろうか？
ああ、全世界の渇望よ、 ああ、我が魂の飾りよ！
ああ、イエス、イエスよ、 自身のかたわらに松明を置きたまえ、
それにより、あなたを喜ばせるものを、私に告げ知らせるために！

6. レチタティーヴォ（福音史家）

そして、男子の初子を産んだ。
それで、布にくるんで、
飼葉おけに寝かせた。
宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

（ルカ 2:7）

7.Choral e Recitativo（Soprano, Basso）
<Soprano>
Er ist auf Erden kommen arm,
<Basso>
Wer will die Liebe recht erhöhn,
die unser Heiland vor uns hegt?
<Soprano>
daß er unser sich er barm
<Basso>
Ja, wer vermag es einzusehen,
wie ihn der Menschen Leid bewegt?
<Soprano>
und in dem Himmel mache reich
<Basso>
Des Höchsten Sohn kömmt in die Welt,
weil ihm ihr Heil so wohl gefällt,
<Soprano>
und seinen lieben Engeln gleich.
<Basso>
so will er selbst als Mensch geboren werden.

<Soprano>
Kyrieleis!

8.Aria（Basso）
Großer Herr, o starker König, liebster Heiland,
O wie wenig achtest du der Erden Pracht!
Der die ganze Welt erhält, ihre Pracht und Zier erschaffen,
muß in harten Krippen schlafen.

9.Choral
Ach mein herzliebes Jesulein,
mach dir ein rein sanft Bettelein,
zu ruhn in meines Herzens Schrein,
daß ich nimmer vergesse dein!

第 II 部・Am zweiten Weihnachtstag
10.Sinfonia

11.Recitativo (Evangelista)
Und es waren Hirten in derselben Gegend
auf dem Felde bei den Hürden,
die hüteten des Nachts ihre Herde.
Und siehe, des Herren Engel trat zu ihnen,
und die Klarheit des Herren leuchtet um sie,
und sie furchten sich sehr.

12.Choral
Brich an, o schönes Morgenlicht,
und laß den Himmel tagen!
Du Hirtenvolk, erschrecke nicht,
weil dir die Engel sagen,
daß dieses schwache Knäbelein
soll unser Trost und Freude sein,
dazu den Satan zwingen
und letztlich Friede bringen!

7. コラールとレチタティーヴォ（ソプラノ、バス）
<ソプラノ>
あの方は貧しい姿でやって来た。
<バス>
救い主が私たちに与えた愛に
勝るものはあろうか？
<ソプラノ>
あの方が私たちを憐れんでくださいますように。
<バス>
そうである、誰が理解できようか、
人間の苦しみをいかにあの方を悩ませたのかを。
<ソプラノ>
そして、天国で豊かにしてくださいますように。
<バス>
いと高き者の御子がこの世にやって来る、
世の救いをかくも心にかけてくださるがゆえに。
<ソプラノ>
そして、愛する天使たちと同じにしてくださいますように。
<バス>
このようにしてあの方は、自身の意志で、人間として誕生されるのだ。
<ソプラノ>
主の憐れみを！

8. アリア（バス）
偉大なる主、おお、強き王よ、いとしい救い主よ、
なんと汝はこの地の栄華を軽んじられることか！
全世界を養い、その栄華と装飾を創造された方が
固い飼葉おけで眠らなくてはならないのだ。

9. コラール
ああ、我が心のみどり児イエスよ！
御身のために柔らかな寝床として
我が心の宮に憩えたまえ
私が御身を決して忘れることのないように。

第二部・クリスマス第二祝日（12月26日）
10. シンフォニア

11. レチタティーヴォ（福音史家）
さて、この土地に、羊飼いたちが、
野宿で夜番をしながら
羊の群れを見守っていた。
すると、主の使いが彼らのところに来て、
主の栄光が回りを照らしたので、
彼らはひどく恐れた。
（ルカ 2:8-9）

12. コラール
現れよ、おお美しき暁の光よ
そして、大空を明るませよ！
汝羊飼いの民よ、おそれることはない
何故ならば、御使いたちがこう告げるのだから、
「このか弱いみどり児は
我らの慰め、喜びとなり、
サタンを追い払って
ついには平和をもたらしてくれるお方なのだ」と。

13.Recitativo (Evangelista),
Und der Engel sprach zu ihnen ;
<Angelus> (Soprano)
Fürchtet euch nicht, siehe, ich verkündige euch große Freude,
die allem Volke widerfahren wird.
Denn euch ist heute der Heiland geboren,
welcher ist Christus, der Herr, in der Stadt David.

14.Recitativo (Basso)
Was Gott dem Abraham verheißen,
das läßt er nun dem Hirtenchor erfüllt erweisen.
Ein Hirt hat alles das zuvor von Gott erfahren müssen.
Und nun muß auch ein Hirt die Tat,
was er damals versprochen hat, zuerst erfüllet wissen.

15.Aria (Tenore)
Frohe Hirten, eilt, ach eilet,
eh ihr euch zu lang verweilt,
eilt, das holde Kind zu sehn!
Geht, die Freude heißt zu schön,
sucht die Anmut, zu gewinnen,
geht und labet Herz und Sinnen!

16.Recitativo (Evangelista)
Und das habt zum Zeichen :
Ihr werdet finden das Kind in Windeln gewikkelt
und in einer Krippe liegen.

17.Choral
Schaut hin' dort liegt im finstern Stall,
des Herrschaft gehet überall !
Da Speise vormals sucht ein Rind,
Da ruhet itzt der Jungfrau'n Kind.

18.Recitativo (Basso)
So geht denn hin, ihr Hirten,
geht, daß ihr das Wunder seht:
Und findet ihr des Höchsten Sohn in einer harten Krippe liegen,
so singet ihm bei seiner Wiegen aus einem süßen Ton
und mit gesamtem Chor dies Lied zur Ruhe vor!

19.Aria (Alto)
Schlafe, mein Liebster, genieße der Ruh,
wache nach diesem vor aller Gedeihen!
Labe die Brust, empfinde die Lust,
wo wir unser Herz er freuen!

20.Recitativo (Evangelista)
Und alsobalt war da bei dem Engel
die Menge der himmlischen Heerscharen,
die lobten Gott und sprachen:

21.Chorus
Ehre sei Gott in der Höhe
und Friede auf Erden und den Menschen ein Wohlgefallen.

13. レチタティーヴォ（福音史家）
御使いは彼らに言った。
<御使い>(ソプラノ)
「恐れることはありません。今、私はこの民全体のための
すばらしい喜びを知らせに来たのです。
きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主が
お生まれになりました。この方こそ主キリストです。

（ルカ 2:10-11）

14. レチタティーヴォ（バス）
神がアブラハムに約束なさったことを
いま、成就なさったことを、羊飼いの群れに示した。
ひとりの羊飼いが、あらかじめすべてを神から聞いていた。
そして、今またひとりの羊飼いが、神がその頃約束されたことが
やっと成就したことを初めて知ったのだ。

15. アリア（テノール）
喜べ、羊飼いよ、急げ、ああ急げ、
ここに長く留まることがなく
急げ、愛らしいこどもを見んがために！
行け、その喜びは美しすぎるという、
行け、優美なものを探して、
得よ、行き、そして心と思考をさわやかにするがいい。

16. レチタティーヴォ（福音史家）
あなたがたは布にくるまって飼葉おけに寝ておられる
みどり児を見つけます。
これが、あなたがたのためのしるしです。

（ルカ 2:12）

17. コラール
向こうを見よ！あの暗い家畜小屋に寝ている
お方の支配はいたるところに及ぶのだ。
以前は、牛が食べ物をあさっていたところに、
今、聖母の御子が安らっておられる。

18. レチタティーヴォ（バス）
それならば行きなさい、羊飼いたちよ
行け、その奇跡を見るために。
あなたのいと高き息子が、固い飼葉おけに寝ているのを見つけたら、
彼のゆりかごのそばで甘い音色で歌ってやりなさい。
みなで声を合わせ、平穏の歌を。

19. アリア（アルト）
眠れ、私の愛らしい君よ、安らぎにひたりながら
そのあとで、あらゆる繁栄のために、目を覚ましたまえ。
胸をさわやかにさせ、楽しみを感じたまえ。
その時、私たちの心は喜ぶのだ。

20. レチタティーヴォ（福音史家）
すると、たちまち、御使いと一緒に、
多くの軍勢が現れて、
神を賛美して言った。

（ルカ 2:13）

21. 合唱
いと高き所に、栄光が、神にあるように。
地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。

（ルカ 2:14）

22.Recitativo（Basso）
So recht, ihr Engel, jauchzt und singet,
daß es uns heut so schön gelinget！
Auf denn！ wir stimmen mit euch ein,
uns kann es so wie euch erfreun.

23.Choral
Wir singen dir in deinem Heer
aus aller Kraft Lob, Preis und Ehr,
daß du, o lang gewünschter Gast,
dich nunmehr eingestellet hast.

22. レチタティーヴォ（バス）
おみごと、御使いたちよ、歓声をあげて歌え！
今日私たちにこんなにも素晴らしいことが成就したからには！
いざ！私たちはあなたたちに声を合わせよう、
お互いにそれは同じ喜びなのだから。

23. コラール
私らは、御身の軍勢に加わって、
力の限り称賛、賛美と栄光を歌います。
おお、長く待ち望まれて賓客である御身が
今やついに姿を現されたのですから。

第 Ⅲ 部・Am dritten Weihnashtstag

24.Coro
Herrscher des Himmels, erhöre das Lallen,
Laß dir die matten Gesänge gefallen,
Wenn dich dein Zion mit Psalmen erhöht!
Höre der Herzen frohlokkendes Preisen,
Wenn wir dir itzo die Ehrfurcht erweisen,
weil unsre Wohlfahrt befestiget steht!

25.Recitativo (Evangelista)
Und da die Engel von ihnen gen Himmel fuhren,
sprachen die Hirten untereinander：

26.Coro
Lasset uns nun gehen gen Bethlehem
und die Geschichte sehen, die da geschehen ist、
die uns der Herr kundgetan hat.

27.Recitativo（Basso）
Er hat sein Volk getröst',
er hat sein Israel erlöst,
die Hülf aus Zion hergesendet und unser Leid geendet.
Seht, Hirten, dies hat er getan;
Geht, dieses trefft ihr an！

28.Choral
Dies hat er alles uns getan,
sein groß Lieb zu zeigen an;
des freu sich alle Christenheit
und dank ihm des in Ewigkeit.
Kyrieleis!

29.Aria Duetto（Soprano, Basso）
Herr, dein Mitleid, dein Erbarmen
tröstet uns und macht uns frei.
Deine holde Gunst und Liebe,
Deine wundersamen Triebe machen
Deine Vatertreu wieder neu.

第三部・クリスマス第三祝日（12月27日）

24. 合唱
天上の主君よ、舌足らずな歌に耳を傾けたまえ
このつたなき歌をも嘉したまえ。
シオンが詩篇もて汝をたたえるときに。
躍りたつ心の賛美を聞きたまえ。
我らがおん身に畏敬証しするいま、
幸福が確立するゆえんなり。

25. レチタティーヴォ（福音史家）
御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、
羊飼いたちは互いに話し合った。
（ルカ 2:15）

26. 合唱
さあ、ベツレヘムに行って、
主が私たちに知らせてくださった
この出来事を見て来よう。
（ルカ 2:15）

27. レチタティーヴォ（バス）
主は、民衆をお慰めになった、
主はイスラエルを救い出してくださった。
シオンから助けをお送りになり、苦しみを終わらせてくださった。
見よ、羊飼いたち！このことを主はなされた。
行け、その事に会うのだ！

28. コラール
これらすべてのことを、主は我らのためになさってくださった、
彼の大いなる愛を示すために。
すべてのキリスト教徒はこのことを喜び、
このことで主に永遠に感謝するのだ。
主よ憐れみたまえ！

29. 二重唱（ソプラノ、バス）
主よ、あなたの同情、あなたの憐れみが
私たちを慰め、自由にしてくれます。
あなたのやさしい思いやりと愛、
あなたの不思議なあふれる思いが
あなたの父なる真実を、再び新たにするのです。

30.Recitativo (Evangelista)
Und sie kamen eiland und funden beide, Mariam und Joseph,
dazu das Kind in der Krippe liegen.
Da sie es aber gesehen hatten, breiteten sie das Wort aus,
welches zu ihnen von diesem Kind gesaget war.
Und alle, für die es kam, wunderten sich der Rede,
die ihnen die Hirten gesagt hatten.
Maria aber behielt alle diese Worte
und bewegte sie in ihrem Herzen.

31.Aria（Alto）
Schließe, mein Herze,
dies selige Wunder fest in deinem Glauben ein!
Lasse dies Wunder, die göttlichen Werke immer zur Stärke
deines schwachen Glaubens sein!

32.Recitativo（Alto）
Ja, ja, mein Herz soll es bewahren,
was es an dieser holden Zeit zu seiner Seligkeit
für sicheren Beweis erfahren.

33.Choral
Ich will dich mit Fleiß bewahren,
ich will dir leben hier,
dir will ich abfahren,
mit dir will ich endlich schweben
voller Freud ohne Zeit
dort im andern Leben.

34.Recitativo (Evangelista)
Und die Hirten kehrten wider um, preiseten und lobten Gott
um alles, das sie gesehen und gehöret hatten,
wie denn zu ihnen gesaget war.

35.Choral
Seid froh dieweil,
daß euer Heil
ist hie ein Gott und auch ein Mensch geboren,
der, welcher ist der Herr und Christ
in Davids Stadt, von vielen auserkoren.

30. レチタティーヴォ（福音史家）
そして、急いで行って、マリヤとヨセフと、
飼葉おけに寝ておられるみどり児を探し当てた。
それを見たとき、羊飼いたちは、
この幼子について告げられたことを知らせた。
それを聞いた人たちはみな、
羊飼いの話したことに驚いた。
しかしマリヤは、これらのことをすべて心に納めて、
思い巡らしていた。
（ルカ 2:16-19）

31. アリア（アルト）
私の心よ、
この天の祝福を受けた奇跡を自身の信仰の中に固く封印せよ！
この奇跡、この御業を、自身の弱き信仰の
絶えず強さとするのだ。

32. レチタティーヴォ（アルト）
わかりました、私の心にそれをとどめます。
恵みの時に幸いにも、
確固とした証しとして経験せんことを。

33. コラール
私は勤勉に御身をお守りしよう、
私は御身によりこの世に生き、
御身のもとへ出発しよう。
御身とともについには漂おう、
喜びに満ち、時を忘れ、
別の生命の中にある、あそこで。

34. レチタティーヴォ（福音史家）
羊飼いたちは、見聞きしたことが、
全部御使いたちの話のとおりだったので、、
神をあがめ、賛美しながら帰って行った。
（ルカ 2:20）

35. コラール
それゆえに喜べ、
あなたたちの救い主が
神として、また人として、ここにお生まれになったということを。
そのお方こそ多くの人々のなかから選び抜かれた
ダビデの町におられる、主、キリストだ！

第 IV 部・Am Fest der Beschneidung Christi

36.Chorus
Fallt mit Danken, fallt mit Loben vor des Höchsten Gnadenthron!
Gottes Sohn will der Erden Heiland und Erlöser werden,
Gottes Sohn dämpft der Feinde Wut und Toben

37.Recitativo (Evangelista)
Und da acht Tage um waren,
daß das Kind beschnitten würde,
da ward sein Name genennet Jesus,
welcher genennet war von dem Engel,
ehe denn er im Mutterleibe empfangen ward.

第四部・キリスト割礼の日（1月1日）

36. 合唱
いと高き恩寵の王座の前に感謝し、賛美をもってひれ伏せよ。
神の御子がこの地上の救い主にあがない主になろうとしておられる
神の御子は諸々の敵の怒りや狂暴さを鎮めて下さる。

37. レチタティーヴォ（福音史家）
そして、八日が満ちて
幼子に割礼を施す日となり、
幼子はイエスという名で呼ばれることになった。
胎内に宿る前に
御使いがつけた名である。
（ルカ 2:21）

38.Recitativo con Chorale（Basso,Soprano）

<Basso>
Immanuel, o süßes Wort!
Mein Jesus heißt mein Hort,
mein Jesus heißt mein Leben.
Mein Jesus hat sich mir ergeben,
mein Jesus soll mir immerfort
vor meinen Augen schweben.
Mein Jesus heißet meine Lust,
mein Jesus labet Herz und Brust.
<Soprano>
Jesu, du mein liebstes Leben,
<Basso>
Komm! Ich will dich mit Lust umfassen,
<Soprano>
meiner Seelen Bräutigam,
<Basso>
mein Herze soll dich nimmer lassen,
<Soprano>
der du dich vor mich gegeben
<Basso>
Ach! So nimm mich zu dir!
<Soprano>
An des bittern Kreuzes Stamm!
<Basso>
Auch in dem Sterben sollst du mir
das Allerliebste sein;
in Not, Gefahr und Ungemach
seh ich dir sehnlichst nach.
Was jagte mir zuletzt der Tod für Grauen ein?
Mein Jesus ! Wenn ich sterbe,
so weiß ich, daß ich nicht verderbe.
Dein Name steht in mir geschrieben,
der hat des Todes Furcht vertrieben.

39.Aria（Soprano,Echo）

Flößt. mein Heiland. flößt dein Namen
auch den allerkleinsten Samen
jenes strengen Schreckens ein?
Nein, du sagst ja selber nein. (Nein !)
Sollt ich nun das Sterben scheuen?
Nein, dein süßes Wort ist da!
Oder sollt ich mich erfreuen?
Ja, du Heiland sprichst selbst ja, (Ja!)

40.Recitativo con Chorale（Basso,Soprano）

<Basso>
Wohlan, dein Name soll allein
in meinem Herzen sein!
<Soprano>
Jesu meine Freud und Wonne.
Meine Hoffnung, Schatz und Teil.
<Basso>
So will ich dich entzücket nennen.
Wenn Brust und Herz zu dir vor Liebe brennen.
<Soprano>
Mein Erlösung. Sehmuck und Heil,
Hirt und König. Licht und Sonne.

38. コラール付きレチタティーヴォ（ソプラノ、バス）

<バス>
インマヌエル、おお甘きことばよ！
わがイエスは私を守ってくれます、
わがイエス、それは私の生命です。
わがイエスは御自身を私に与えてくださいました、
わがイエスはこれにより
私の眼前から離れぬ方となるでしょう。
わがイエス、それは私の喜びです、
わがイエスは心と思いを慰めてくれます。
<ソプラノ>
イエスよ、私の愛する生命よ、
<バス>
来てください、私は喜んであなたを抱きます、
<ソプラノ>
私の魂の花婿よ、
<バス>
私の心は決してあなたを捨てることはありません,
<ソプラノ>
あなたは御自身を私の前にお示しになりました
<バス>
ああ、私をあなたのもとへ受け取ってください！
<ソプラノ>
苦い十字架の木にかけられたのです！
<バス>
たとえ私が死に直面しても
あなたは最愛の方です。
苦しみ、困難、災いのうちにあっても
私は心からあなたをお慕いいたします。
私の死に際してどんな恐怖が吹き込まれるだろうか？
わがイエス！私が死んでも
私は滅びないということを私は知りました。
あなたの名前が私の内に書き込まれたのです。
その名こそが死への恐怖を取り除いてくれたのです。

39. アリア（ソプラノとエコー）

答えて下さい。私の救い主。
あなたの名前は小さな種子ほどにも
死への恐れをかきたてるものでしょうか？
いや、あなたはみずから語ります。「否」と。(否!)
今この時、私は死を恐れる必要があるでしょうか？
いや、あなたのやさしい言葉に守られています！
それとも私は死を喜んで迎えるべきでしょうか？
その通り、救い主はみずから語ります。「然り」と。（然り！）

40. コラール付きレチタティーヴォ（ソプラノ、バス）

<バス>
さあ、いざ、あなたの御名のみが
私の心に宿っていますように！
<ソプラノ>
イエスよ、私の無上の喜び、
私の望み、宝、私の分身。
<バス>
私は喜びのあまりあなたの御名を呼ぶでしょう。
心と思いはあなたへの愛で燃え盛っていますから。
<ソプラノ>
私の贖い、私の装飾、私の救い。
牧者にして王、光にして太陽なる君。

<Basso>
Doch, Liebster, sage mir:
Wie rühm ich dich, wie dank ich dir?
<Soprano>
Ach! wie soll ich würdiglich,
Mein Herr Jesu, preisen dich?

41.Aria（Tenore）
Ich will nur dir zu Ehren leben,
mein Heiland, gib mir Kraft und Mut,
daß es mein Herz recht eifrig tut!
Stärke mich,
deine Gnade würdiglich
und mit Danken zu erheben!

42.Choral
Jesus richte mein Beginnen,
Jesus bleibe stets bei mir,
Jesus zäume mir die Sinnen,
Jesus sei nur mein Begier,
Jesus sei mir in Gedanken,
Jesu, lasse mich nicht wanken!

<バス>
しかし、最愛の方よ、私に教えてください。
どのようにしてあなたをほめ讃え、感謝すればいいのか？
<ソプラノ>
ああ、私はどのようにすればふさわしく
私の主イエスを讃えることができるのでしようか？

41. アリア（テノール）
私はただあなたの栄光のみのために生きます。
私の救い主よ、私に力と勇気を与えて下さい。
私が心から正しく行動できますように！
私を強めてください、
あなたの恵みをふさわしく
そして感謝をもってほめ讃えることができますように！

42. コラール
イエスよ、我が始まりを正せ、
イエスよ、常に我がかたわらにあれ、
イエスよ、我が官能を抑え、
汝のみ、我が熱望であれ。
イエスよ我が思いの内にあれ、
イエスよ我がよろめかすことなかれ！

第 V 部・Am Sonntag nach Neujahr

43.Coro
Ehre sei dir, Gott, gesungen,
dir sei Lob und Dank bereit';
Dich erhebet alle Welt,
weil dir unser Wohl gefällt,
weil anheut unser aller Wunsch gelungen,
weil uns dein Segen so herrlich erfreut.

44.Recitativo（Evangelista）
Da Jesus geboren war
zu Bethlehem im jüdischen Lande
zur Zeit des Königes Herodis,
siehe, da kamen die Weisen vom Morgenlande
gen Jerusalem und sprachen:

45.Chor e Recitativo（Alto）
<Coro>
Wo ist der neugeborne König der Jüden?
<Alto>
Sucht ihn in meiner Brust,
hier wohnt er, mir und ihm zur Lust!
<Coro>
Wir haben seinen Stern gesehen im Morgenlande
und sind kommen, ihn anzubeten.
<Alto>
Wohl euch, die ihr dies Licht gesehen,
es ist zu eurem Heil geschehen!
Mein Heiland, du, du bist das Licht,
das auch den Heiden scheinen sollen,
und sie, sie kennen dich noch nicht,
als sie dich schon verehren wollen.
Wie hell, wie klar muß nicht dein Schein,
geliebter Jesu, sein!

第五部・新年後の日曜日

43. 合唱
神よ、御身に栄光が歌われてあれ、
御身に讃美と感謝が用意されてあれ。
すべての世界が御身をあがめる。
我らの安寧は御心にかなうが故に、
今日、我らのすべての願いがかなえられたがゆえに、
御身の祝福が、いとも輝かしく我らを喜ばすがゆえに。

44. レチタティーヴォ（福音史家）
イエスが、
ヘロデ王の時代に、
ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、
見よ、東方の博士たちが
エルサレムにやって来て言った。
(マタイ 2:1)

45. 合唱とレチタティーヴォ（アルト）
<合唱>
ユダヤ人の王としてお生れになった方はどこにおいでになりますか？
<アルト>
その方を胸のうちに求めよ。
その方はここに宿る、私の喜びを御自分の喜びとして！
<合唱>
私たちは東のほうでその方の星をみたので、
拝みに参りました。
(マタイ 2:2)
<アルト>
幸いなるかな、この光を見た者は。
それは私たちの救いのために現われたのである！
私の救い主、あなたこそ、その光なのです。
それは、異邦人にも現われ、
彼らはまだあなたのことを知りませんが、
はやくあなたを拝みたいと望んでいます。
あなたの輝きがいかに明るく、いかに鮮やかであるか、
愛するイエスよ！

46.Choral
Dein Glanz all Finsternis verzehrt,
die trübe Nacht in Licht verkehrt.
Leit uns auf deinen Wegen,
Daß dein Gesicht und herrlichs Licht
wir ewig schauen mögen!

47.Aria（Basso）
Erleucht auch meine finstre Sinnen,
erleuchte mein Herze
durch der Strahlen klaren Schein!
Dein Wort soll mir die hellste Kerze
in allen meinen Werken sein;
dies lässet die Seele nichts Böses beginnen.

48.Recitativo (Evangelista)
Da das der König Herodes hörte,
erschrak er und mit ihm das ganze Jerusalem.

49.Accompagnato（Alto）
Warum wollt ihr erschrecken?
Kann meines Jesu Gegenwart euch solche Furcht erwekken?
O! solltet ihr euch nicht vielmehr darüber freuen,
weil er dadurch verspricht,
der Menschen Wohlfahrt zu verneuen.

50.Recitativo (Evangelista)
Und ließ versammeln alle Hohenpriester
und Schriftgelehrten unter dem Volk
und erforschete von ihnen,
wo Christus sollte geboren werden.
Und sie sagten ihm:
Zu Bethlehem im jüdischen Lande;
denn also stehet geschrieben durch den Propheten:
Und du Bethlehem im jüdischen Lande,
bist mitnichten die keinest unter den Fürsten Juda;
denn aus dir soll mir kommen der Herzog,
der über mein Volk Israel ein Herr sei.

51.Aria Terzetto（Soprano, Tenore, Alto）
<Soprano>
Ach, wenn wird die Zeit erscheinen?
<Tenore>
Ach, wenn kömmt der Trost der Seinen?
<Alto>
Schweigt. er ist schon würklich hier!
<Soprano e Tenore>
Jesu, ach so komm zu mir!

52.Recitativo（Alto）
Mein Liebster herrschet schon.
Ein Herz, das seine Herrschaft liebet
und sich ihm ganz zu eigen gibet,
ist meines Jesu Thron.

46. コラール
御身の輝きはすべての暗黒をのみ尽くし、
陰うつな夜を光に変えてしまう。
御身の道に我らを導き給え。
御身のみ顔と燦然たる光とを
我らが永遠に仰ぎ見ることができるように！

47. アリア（バス）
私の不明の五感をも照らし、
私の心をも照らしてください。
燦然と輝く光をもって！
あなたの御言葉こそ、もっとも明るい灯火です。
すべての私の業の中で、
この御言葉は魂に邪心をもち込むことがありません。

48. レチタティーヴォ（福音史家）
それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。
エルサレム中の人も王と同様であった。
（マタイ 2:3）

49. 伴奏付きレチタティーヴォ（アルト）
なぜお前たちは恐れおののくのか？
イエスが共にいられることがお前たちに恐怖を呼び起こすのか？
ああ、お前たちはむしろ喜ぶべきではないか。
なぜなら、イエスがいらっしゃることによって
人々の幸福を一新することが約束されたからです。

50. レチタティーヴォ（福音史家）
そこで、王は、民の祭司長たち、
学者たちをみな集めて、
キリストはどこで生まれるのかと
問いただした。
彼らは王に言った。
「ユダヤのベツレヘムです。
預言者によってこう書かれているからです。
『ユダの地、ベツレヘム。
あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。
わたしの民イスラエルを治める支配者が、
あなたから出るのだから。』」
（マタイ 2:4-6）

51. 三重唱（ソプラノ、テノール、アルト）
<ソプラノ>
ああ、その時はいつ現われるのでしょう？
<テノール>
ああ、彼に従うものの慰めはいつ来るのでしょう？
<アルト>
黙りなさい、彼は今、現にここにいます！
<ソプラノとテノール>
イエスよ、ああ、私のところへ来て下さい！

52. レチタティーヴォ（アルト）
私の最愛の主はすべてを統治します。
その統治を愛し
その力にすべてを委ねる心こそが
わがイエスの御座となります。

53. Choral
Zwar ist solche Herzensstube wohl kein schöner Fürstensaal,
sondern eine finstre Grube;
doch, sobald dein Gnadenstrahl in denselben nur wird blinken,
wird es voller Sonnen dünken.

53. コラール
確かにかかる心の小部屋は、もとより美しい王侯の広間ではなく
真っ暗な穴ぐらにすぎない。
だが、ひとたび御身の恩寵の光がその中できらめき始めるやいなや
その小部屋は照り渡る太陽のように思えてくるだろう。

第 VI 部・Am Epiphaniasfest

54.Chorus
Herr, wenn die stolzen Feinde schnauben,
So gib, daß wir im festen Glauben
nach deiner Macht und Hülfe sehn!
Wir wollen dir allein vertrauen,
so können wir den scharfen Klauen
des Feindes unversehrt entgehn.

55.Recitativo (Evangelista e Basso)
<Evangelista>
Da berief Herodes die Weisen heimlich
und erlernet mit Fleiß von ihnen,wenn der Stern erschienen wäre?
Und weiset sie gen Bethlehem und sprach:
<Bass>
Ziehet hin und forschet fleißig nach dem Kindlein,
und wenn ihr's findet,sagt mir's wieder,
daß ich auch komme und es anbete.

56.Recitativo (Soprano)
Du Falscher, suche nur den Herrn zu fällen,
nimm alle falsche List,
dem Heiland nachzustellen;
der, dessen Kraft kein Mensch ermißt,
bleibt doch in sichrer Hand.
Dein Herz, dein falsches Herz ist schon,
nebst aller seiner List, des Höchsten Sohn,
den du zu stürzen suchst, sehr wohl bekannt.

57.Aria (Soprano)
Nur ein Wink von seinen Händen stürzt ohnmächtger Menschen Macht.
Hier wird alle Kraft verlacht!
Spricht der Höchste nur ein Wort,
seiner Feinde Stolz zu enden,
o, so müssen sich sofort Sterblicher Gedanken wenden.

58.Recitativo (Evangelista)
Als sie nun den König gehöret hatten,zogen sie hin.
Und siehe, der Stern,
den sie im Morgenlande gesehen hatten,
ging für ihnen hin, bis daß er kam und stund oben über,
da das Kindlein war.
Da sie den Stern sahen,
wurden sie hoch erfreuet und gingen in das Haus
und funden das Kindlein mit Maria, seiner Mutter,
und fielen nieder und beteten es an
und täten ihre Schätze auf und
schenkten ihm Gold, Weihrauch und Myrrhen.

第六部・公現日(1月6日)

54. 合唱
主よ、高慢な敵どもが息まくときも、
我らがが堅い信仰のうちにあって
御身の力と救いを仰ぎ見させたまえ！
私らは御身のみをを信頼している。
そうすれば、私らが悪魔の鋭い爪から
傷つかず逃れ得るために。

55. レチタティーヴォ（福音史家、バス）
<福音史家>
そこでヘロデはひぞかに博士たちを呼んで、
彼らから星の出現の時間を突き止めた。
そして、こう言って彼らをベツレヘムに送った。
<バス>
「行ってその幼子のことを詳しく調べ、、
わかったら知らせてもらいたい。
私も行って拝むから。」
(マタイ 2,7-8)

56. レチタティーヴォ（ソプラノ）
汝、いつわりの者よ、主を倒そうとうかがい、
あらゆる悪だくみを用いて
救い主をわなにかけようとしている。
いかなる人もその力を測り知ることのできない者、
彼こそが、確かなる御手のうちにある。
お前の心、お前の偽りの心はすでに、
そのたくらみと共に、お前が倒そうとしている
至高の御子にすべて見透かされている。

57. アリア（ソプラノ）
彼の御手は一瞬にして虚しい人間の力を打ち負かす。

ここでは、いかなる力もあざ笑われるだろう！
至高の方は、ただの一言によって
おごれる敵をなぎ倒す。
おお、すみやかに死すべき者の思いはくつがえされてしまう。

58. レチタティーヴォ（福音史家）
彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。
すると、見よ、
東方で見た星が彼らを先導し、
ついに幼子のおられる所まで進んで行き、
その上にとどまった。
その星を見て、
彼らはこの上もなく喜んだ。そしてその家にはいって、
母マリヤとともに幼子を見、
ひれ伏して拝んだ。
そして、宝の箱をあけて、
黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。
(マタイ 2,9-11)

59.Choral
Ich steh an deiner Krippen hier,
O Jesulein, mein Leben;
ich komme, bring und schenke dir,
was du mir hast gegeben.
Nimm hin! es ist mein Geist und Sinn,
Herz, Seel und Mut, nimm alles hin,
und laß dirs wohlgefallen!

60.Recitativo (Evangelista)
Und Gott befahl ihnen im Traum,
daß sie sich nicht sollten wieder zu Herodes lenken,
und zogen durch einen andern Weg wieder in ihr Land.

61.Recitativo（Tenore）
So geht! Genug,
mein Schatz geht nicht von hier,
er bleibet da bei mir,
ich will ihn auch nicht von mir lassen.
Sein Arm wird mich aus Lieb mit sanftmutsvollem Trieb
und größter Zärtlichkeit umfassen;
er soll mein Bräutigam verbleiben,
Ich will ihm Brust und Herz verschreiben.
Ich weiß gewiß, er liebet mich,
mein Herz liebt ihn auch inniglich und wird ihn ewig ehren.
Was könnte mich nun für ein Feind bei solchem Glück versehren!
Du, Jesu, bist und bleibst mein freund;
und werd ich ängstlich zu dir flehn:
Herr, hilf!, so laß mich Hülfe sehn!

62.Aria（Tenore）
Nun mögt ihr stolzen Feinde schrecken;
was könnt ihr mir für Furcht erwecken?
Mein Schatz, mein Hort ist hier bei mir.
　Ihr mögt euch noch so grimmig stellen,
　droht nur, mich ganz und gar zu fällen,
　doch seht! mein Heiland wohnet hier.

63.Recitativo（Soprano、Alto、Tenore、Basso）
Was will der Höllen Schrecken nun,
Was will uns Welt und Sünde tun,
da wir in Jesu Händen ruhn?

64.Choral
Nun seid ihr wohl gerochen an eurer Feinde Schar,
Denn Christus hat zerbrochen,
was euch zuwider war.
Tod, Teufel, Sünd und Hölle sind ganz und gar geschwächt；

Bei Gott hat seine Stelle das menschliche Geschlecht.

59. コラール
私はここ、飼い葉桶に眠る御身のそばに立つ。
おお、幼子イエス、私の生命よ。
私はやって来、
御身が私にくださったものを御身に贈るために。
受け入れたまえ。それは我が精神と思念、
心、魂、勇気、すべてを受け入れたまえ、
そして御身が喜ばれるよう。

60. レチタティーヴォ（福音史家）
それから、夢で
ヘロデのところへ戻るなという戒めを受けたので、
別の道から自分の国へ帰って行った。
(マタイ 2,12)

61. レチタティーヴォ（テノール）
さあ、行きなさい。満足です。
私の宝はここから去ることはありません。
彼は私のそばにとどまっています。
私も彼を離しません。
彼の御腕は愛にあふれ、柔和に満ちた思いと
大きなやさしさをもって私を包みこみます。
彼は私の花婿であり、
私は彼に思いと心を捧げます。
私は確信します。彼が私を愛してくれることを。
私も彼を心から愛しそして永遠にうやまいます。
いかなる敵であってもこの幸福を損なうことはできない。
あなた、イエスよ、私の友でいて下さい。
そして私は悩みのうちにあって、あなたに呼びかけます。
主よ、救ってください！私に救いを見出させて下さい！

62. アリア（テノール）
今や、高慢な敵どもが脅かすことなどできない。
お前たちは私に恐怖を呼び起こすなど出来ようか？
私の宝、私の楯がそばにいるからです。
　お前たちがいかに猛り狂ったとしても、
　私をうち倒そうと迫っても大丈夫です。
　見なさい。私の救い主がここにおられます。

63. レチタティーヴォ（ソプラノ、アルト、テノール、バス）
地獄の恐れも今はなにするものぞ？
この世と罪は私たちにとって何であるか？
私たちは、イエスの御手の中で安らいでいるのです。

64. コラール
今や、汝らは心ゆくまで復讐した。汝らの敵の群たちに。
なぜならキリストが汝らに敵対する者を
打ち砕かれたのだから。
死、悪魔、罪、そして地獄は余すところなく完全にその力をのぞかれた。
今や、神のかたわらに、席をもつ、我ら人間の輩は。

盛岡バッハ・カンタータ・フェラインの歴史

1977年に発足以来「J.S.バッハの教会カンタータの研究と演奏を通して音楽芸術を追求する」ことを目的として、23年間活動を続けてきました。主な演奏会の概要は以下のとおりです。

1977年	2月 27日	「カンタータを歌う会」として発足		
	6月 28日	「盛岡バッハ・カンタータ・フェライン」に改称		
1978年	2月 26日	「バッハコンツェルト」	カンタータ45番、147番	指揮：小林道夫（芸大と共演）
1979年	10月 6日	「BACH ABEND」	カンタータ158番、131番	指揮：小林道夫
1980年	2月 27日	「バッハの夕べ」	カンタータ80番	指揮：小林道夫（芸大と共演）
	12月 22日	この年より「チャリティー・コンサート」を、盛岡市内のバロック音楽愛好家グループと共催(～1997年)		
1981年	7月 4日	「BACH ABEND」	カンタータ195番、182番	指揮：小林道夫
1982年	11月 22日	「バッハの夕べ」	カンタータ158番、4番	指揮：佐々木正利
1985年	3月 16日 17日	J.S.バッハ生誕300年記念演奏会「ヨハネ受難曲」	ヨハネ受難曲	指揮：佐々木正利（仙台宗教音楽合唱団と合同演奏）
	11月 3日	仙台北教会宗教音楽の夕べ「メサイア」	メサイア（G.F.ヘンデル）	指揮：佐々木正利
	11月 29日	G.F.ヘンデル生誕300年記念演奏会「メサイア」	メサイア（G.F.ヘンデル）	指揮：佐々木正利
1986年	4月 11日	「宗教音楽の夕べ」	ドイツ・レクイエム（H.シュッツ）ほか	指揮：佐々木正利
	4月～5月	第1回ドイツ演奏旅行	ドイツ・レクイエム（H.シュッツ）ほか	指揮：佐々木正利
	7月 11日	「東京ゾリステン演奏会」共演	スターバト・マーテル（ペルゴレージ）	指揮：赤松 安
1987年	3月 28日	創立10周年記念演奏会「カンタータの夕べ」	カンタータ34番、70番、102番ほか	指揮：佐々木正利
	11月 27日	ムシカ・デラルテ・トウキョウ演奏会「バロック音楽の夕べ」（主催）		
1988年	3月 12日 13日	仙台宗教音楽合唱団との合同演奏会「ミサ曲ロ短調」	ミサ曲ロ短調	指揮：佐々木正利
	9月 17日	「今仲幸雄バリトンリサイタル」（主催）		
	11月 17日	「ミヒャエル・ショッパーバリトンリサイタル」（主催）		
1989年	4月 24日	「二重合唱の夕べ」	モテット2番、5番（J.S.バッハ）ほか	指揮：佐々木正利
1990年	3月 10日 11日	盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団合同演奏会	クリスマス・オラトリオ4～6部、ミサ曲ヘ長調（J.S.バッハ）	指揮：佐々木正利
	10月 1日	「アグネス・ギーベル 佐々木正利 ジョイントリサイタル」（主催）		
	12月～翌1月	第2回ドイツ演奏旅行	クリスマス・オラトリオほか	指揮：佐々木正利
1991年	3月 10日	ドイツ演奏旅行帰国演奏会	クリスマス・オラトリオほか	指揮：佐々木正利
	10月 14日 18日	「カンタータ第140番、コーヒーカンタータ」	カンタータ140番、コーヒーカンタータ	指揮：H.ヴィンシャーマン（ドイツ・バッハゾリステンと共演）
1992年	3月 21日	「バッハとメンデルスゾーンのカンタータの夕べ」	カンタータ93番ほか	指揮：佐々木正利
1993年	10月 20日 24日 29日	「マタイ受難曲」（盛岡、仙台、岡山、東京）	マタイ受難曲（J.S.バッハ）	指揮：H.ヴィンシャーマン（ドイツ・バッハゾリステンと共演）

1994年	7月 25日	「カンタータ147番」 仙台バッハアカデミーにおいて	カンタータ147番	指揮：佐々木正利（仙台フィル・バッハアンサンブルと共演）
	12月 18日	弘前市民クリスマス： G. F. ヘンデル「メサイア」演奏会に出演	メサイア （G. F. ヘンデル）	指揮：佐々木正利
1995年	4月 末 ～ 5月	第3回ドイツ演奏旅行	天地創造 （J. ハイドン）ほか	指揮：ヨセフ・ツィルヒ 佐々木正利
	8月 26日	一関・東日本合唱祭参加	モテット6番ほか	指揮：佐々木正利
	9月 26日	劔持清之・トリオフィオリーレ「モーツァルト室内楽の夕べ」（主催）		
	10月 8日	青山町教会チャペルコンサート	天地創造抜粋 （J. ハイドン）ほか	指揮：小原一穂
	11月 22日 23日	「天地創造」（盛岡、仙台） オーケストラ・アンサンブル金沢と共演	天地創造 （J. ハイドン）	指揮：岩城宏之
1996年	3月 15日	「バッハの夕べ」演奏会	カンタータ21, 131番 モテット4番	指揮：佐々木正利
1997年	4月 13日	20周年記念演奏会	「昇天祭オラトリオ」 「マニフィカト」ほか （J. S. バッハ）	指揮：H. J. ロッチュ 佐々木正利
1998年	11月 20日	「ヴィンシャーマンのロ短調ミサ」演奏会 盛岡コーロ・デラ・パーチェと共演	ミサ曲ロ短調 （J. S. バッハ）	指揮：H. ヴィンシャーマン （ドイツ・バッハゾリステンと共演）
	12月 12日	「盛岡いのちの電話」 チャリティーコンサート	カンタータ151番, 191番 讃美歌数曲	指揮：佐々木幹雄
1999年	4月 20日	シュッツのダビデ詩篇と バッハ、メンデルスゾーンのモテットの夕べ	ダビデ詩篇曲3曲 モテット3番（J. S. バッハ） モテット3曲メンデルスゾーン	指揮：佐々木正利
	11月 11日 12日	第5回ドイツ演奏旅行　プロプスタイ教会 ボン・ベートーヴェンホール	ミサ曲ロ短調 （J. S. バッハ）	指揮：H. ヴィンシャーマン （ドイツ・バッハゾリステンと共演）
	11月 14日	インゲルハイム・ザール教会	ダビデ詩篇曲3曲 モテット3番（J. S. バッハ） モテット3曲メンデルスゾーン	指揮：佐々木正利
	12月 22日	「盛岡いのちの電話」 チャリティーコンサート	モテット、三つの宗教的な歌ほか （メンデルスゾーン） オルゲルビューヒライン （J. S. バッハ）	指揮：佐々木正利

なおこのほかにも、クリスマス・チャリティー・コンサート、チャペル・コンサート、合唱祭、新春コーラスコンサートなどに参加、出演しています。

♪　団員募集中　♫

盛岡バッハ・カンタータ・フェラインでは団員を募集しています。合唱が好きな方ならば、年齢、経験を問わず歓迎します。まず、練習をのぞいて見て下さい。

練習日時：毎週火曜日午後6時半～9時まで

練習場所：盛岡市内丸教会（盛岡中央郵便局から与ノ字橋方向へ向かい、200m右側角）

お問合せ：TEL 019-665-1614（渡辺信之）　E-mail：mail@mbkv.org

合唱団出演者

【ソプラノ】

青瀧　憲子*	浅沼　友絵	浅沼　寛子	阿部友紀子	石岡　裕子 ●
岩井花文枝	大川　敦子	小笠原　忍	小澤めぐみ	尾友　佳子
小野　麻子	小野寺貴子	加藤　真香	菊池　節子	菊池　福子
熊谷　充代	斉藤　純子	佐々木裕美	佐々木玲子*	佐藤　澄江
佐藤　千砂	澤田　東子	鹿内　夏子	菅原　亜希	鈴木まゆみ*
高橋菜穂子	高橋　聡子	竹森美映子	田村いずみ ●	丹野　貞子
千田　雅子	土室　千春	堤　智恵子	奈良めぐみ	軒　多賀子
福田　温子 ○	平野　泰子	広瀬　妙子*	藤崎　美苗	藤澤　智子
細田　彩子	水戸由貴子*	三原　佳織	本良いよ子*	柳田　松子
矢幅　嘉子	横内　愛理	吉田　歩*	渡邊　絵美	渡辺真理子

【アルト】

井上　紘子*	扇田　暁子	小川　暁美 ○	小川　晄子	小澤かおる
小田島千恵 ●	小野寺洋子	加藤緒理絵 ○	金子　千鶴	兼田紀美子
菊池　敏子	桐原　絹子	工藤　由紀 ●	小林　由美	今野　早苗*
佐々木美智子	佐藤　公	佐藤　恵	柴田　映子*	須川加奈子
鈴木栄見子	鈴木奈緒子	関口美彩江	高橋　孝子	武田　敏恵
丹野　まり	千田加代子	中野　和子	早川芙美子	原　穂波
平井　良子	廣瀬利津子	福田　祐子	三浦　直子	茂木　史
茂木　容子				

【テノール】

太田　穎則	大森　元希	小川　隆弘	小山内　薫 ●	織田　靖夫 ○
鏡　貴之	加藤　進也	加藤　照道	兼平　雅彦*	金野　達徳
斉藤　健	嵯峨　文裕	佐々木正利	佐々木幹雄 ◎	佐藤　修
武田　宏	徳山　欣也	中川　喜之	中野　寛司	増田　崇
三原　正敏	森　順一	吉村　哲	渡邊　伸作	

【バス】

赤塚　貴史	東　勝	稲葉　正俊	大宮　一弥*	小原　一穂 ◎
後藤　頼男	後藤田篤夫	佐久間良樹*	佐々木直樹	佐藤　和久
佐藤　浩紀	下田　潤	菅原　哲也	杉井　智一*	高橋　聡
田沢　隆	千田　敬之	芳賀　郁夫 ●	戸来　百樹	松岡　静一
大和　敏憲	横山　泉 ○	吉田　俊彦	渡辺　信之	

*印：　仙台宗教音楽合唱団
◎印：　コンサートマスター
○印：　パートリーダー
●印：　サブ・パートリーダー

クリスマス・オラトリオ全曲演奏会

協　賛

兼　田　紀美子

株式会社　蜂　屋

藤村　誠　土地家屋調査士事務所

松浦和博　土地家屋調査士事務所

三　原　昇　子

（順不同）

「クリスマス・オラトリオ全曲演奏会」実行委員会・スタッフ

委　員　長　　茂木　容子
チケット係　　茂木　容子
会計係　　斉藤　　健
庶務係　　堤　智恵子
印刷係　　渡辺　信之
渉外係　　千田　敬之
舞台監督係　　田沢　　隆
ワーキングスタッフ
　　中川　喜之・横内　愛理・渡邊　伸作・東　　勝
録画　　近藤　敏行・石垣　美和・高橋　和人
録音　　頭組
写真撮影　　田代　　晃
パンフレット作製協力
　　梶本音楽事務所・佐々木幹雄・熊谷　充代・高橋　聡子・横内　愛理
　　東　　靖
印刷　　梶本音楽事務所・三澤印刷
企画ＰＲ　　ＩＢＣ岩手放送

次回演奏会の予定

バッハ・カンタータとブラームス・モテットの夕べ

～　２５周年記念演奏会　～

2002年1月中旬　盛岡市民文化ホール・大ホール（予定）

指　　揮　：　佐々木　正　利
合　　唱　：　盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

【曲目】

J.S.バッハ　/　カンタータ第150番「主よ、われ汝を仰ぎ望む」BWV.150
J.S.Bach / Kantate Nr.150　Nach dir, Herr, verlanget mich　BWV150

J.S.バッハ　/　カンタータ第184番「待ち望みたる歓びの光ぞ」BWV.184
J.S.Bach / Kantate Nr.184　Erwuenschtes Freudenlicht　BWV184

ブラームス　/　4つのモテット
J.Brahms / Vier Motetten
「いかなれば艱難にある者に光を賜い」Op.74-1
Warum ist das Licht gegben dem Muehseligen　Opus 74, Nr.1
「おお救世主よ、天国を引き開けて」Op.74-2
O Heiland reiss die Himmel auf　Opus 74, Nr.2
「救いはわれらより来る」Op.29-1
Es ist das Heil uns kommen hier　Opus 29, Nr.1
「神よわがために清き心をつくれ」Op.29-2
Schaffe in mir Gott ein rein Herz　Opus 29, Nr.2

J.S.バッハ　/　カンタータ第39番「飢えたる者にパンを裂き与えよ」BWV.39
J.S.Bach / Kantate Nr. 39　Brich dem Hungrigen dein Brot　BWV 39

主　　催　：　盛岡バッハ・カンタータ・フェライン
お問合せ　：　019-665-1614　（渡辺 信之）

Joh: Sebast: Bach